

地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査

調査結果

令和8年3月25日
福島県復興・総合計画課

地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

○調査目的

官民連携・共創チームの活動のスタートにあたり、県内高等教育機関を対象として、「福島ならではの地方創生・人口減少対策を進めるために何が必要か」について、アンケート調査することで、**若者（今後就職を控える学生）の意見を把握し、ふくしま共創チームのワーキングチームにおける議論に活用する。**

○期 間：令和7年7月14日（月）～令和7年7月31日（木）

○対 象：県内の大学（大学院含む）、短期大学、高等専門学校に在籍する学生を想定

○調査方法：Webアンケート

○回答件数：557件（うち男性：192件、女性356件、その他9名）

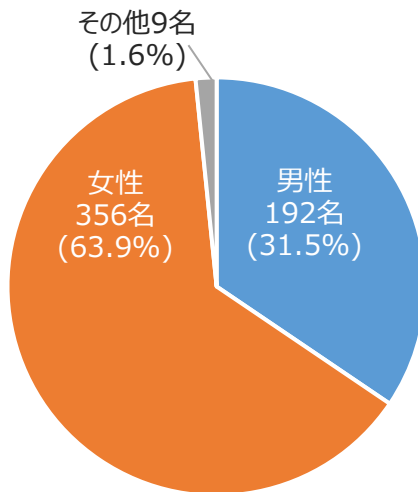
○主な調査項目

- 1 若い世代の人口減少に対する現状認識に関する質問（人口減少の受け止め、生活の中で人口減少の影響を感じる事）
- 2 特に重要だと思う人口減少対策の取組に関する質問（ふくしま創生総合戦略の「ひと」・「暮らし」・「しごと」・「人の流れ」の分野ごとに重要と考える取組（不足していると感じる取組））
- 3 将来の進路等の意向に関する質問（卒業後の進路（場所）、就職活動で重視するポイント、福島県で生活していく上で求めること）

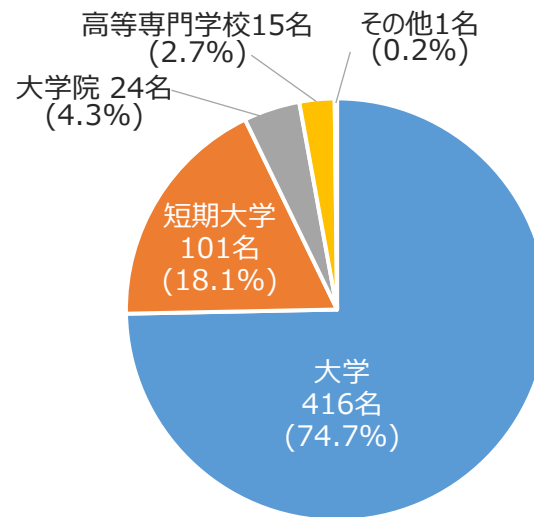
回答者の基本情報 (属性)

(回答者数
=557名)

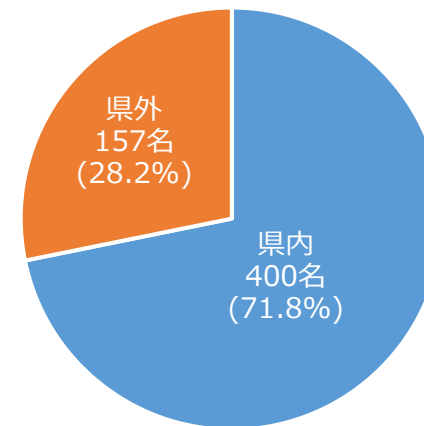
<男女内訳>



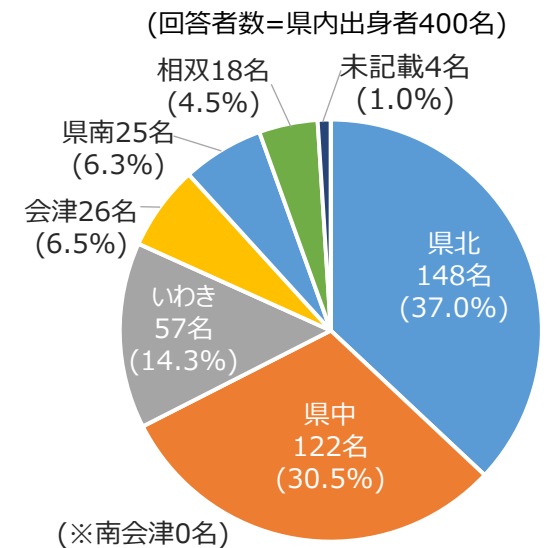
<在学中の学校内訳>



<出身地内訳>



<県内出身者・出身地域>

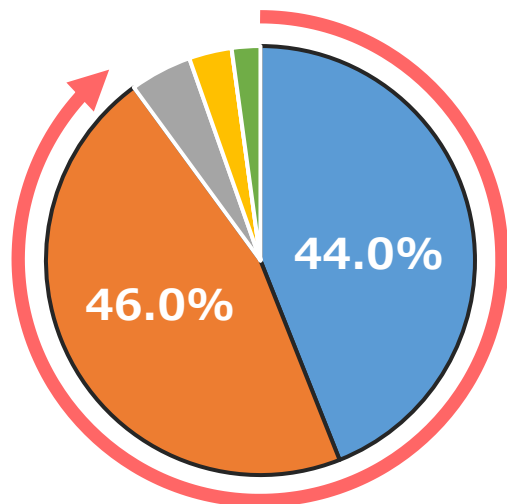


地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

- ・県内大学生等の約9割が人口減少を「深刻」と捉えている。
- ・人口減少による影響として、地域の若年層の減少、公共交通の維持への懸念、税金や社会保障に関する現役世代の負担感、学校や生徒数の減少、子育てや教育環境の悪化への懸念に関する意見が多くみられた。

人口減少の深刻度



(回答者数=557名)

- とても深刻だと思う
- やや深刻だと思う
- どちらとも言えない
- あまり深刻だとは思わない
- 全く深刻だとは思わない
- 関心がない

人口減少を深刻と捉えている割合

89.9%

「人口減少」が日常生活に与える影響

(回答者数=557名、複数選択)

(回答者割合)

※回答者の4割以上が選択した項目

- 69.3%** 地域から若い人がいなくなる
- 60.9%** 公共交通（電車・バス）が減る / なくなる
- 54.8%** 学校数や生徒数が少なくなる
- 53.7%** 税金や社会保障の負担が増える
- 51.5%** 子どもを育てる環境が悪くなる（保育園、学校の統廃合など）
- 45.2%** 地域行事や伝統文化の継続が難しくなる
- 41.3%** お店やサービス（コンビニ、商店街など）がなくなる

2 どんな取組が足りていないと感じているか

- ・ひと分野では、「子育て支援」、「出会い・結婚・妊娠・出産への支援」が上位を占め、「教育の充実」や「女性が活躍できる社会の環境」が続いた。
- ・暮らし分野では、「生活環境の維持向上」、「まちの強靱化と賑わいの創出」、「過疎・中山間地域の振興」が上位を占め、「文化・スポーツ・生涯学習の振興」が続いた。



ひと分野

(回答者数=557名、複数選択・3つまで)

(回答者割合) ※上位3つ・回答者の3割以上が選択した項目

52.2% **子育て支援**
(保育環境の整備、子育て家庭の経済的負担の軽減など)

44.7% **出会い・結婚・妊娠・出産への支援**
(出会いの場の提供、結婚・妊娠・出産までの不安の軽減など)

31.2% **教育の充実①**
(学力、体力、心の豊かさ、質の高い特色ある教育など)



暮らし分野

(回答者数=557名、複数選択・3つまで)

(回答者割合) ※上位4つ・回答者の3割以上が選択した項目

56.0% **生活環境の維持向上**
(保健・医療・福祉、公共交通、住環境など)

55.5% **まちの強靱化と賑わいの創出**
(災害に強い施設、インフラ老朽化対策、商店街の活性化など)

48.8% **過疎・中山間地域の振興**
(担い手確保、生活・教育環境の充実、地域資源を活かした仕事など)

31.6% **文化・スポーツ・生涯学習の振興・推進**
(音楽、美術、伝統文化、スポーツ(プロ含む)など)

2 どんな取組が足りていないと感じているか

- ・しごと分野（働き方や就職に関すること）では、「**多様で柔軟な働き方**」、「**福島企業の魅力の情報発信**」、「**人材育成・人手不足への対応**」が上位を占め、「**小中高生、大学生の地元企業等への愛着形成**」、「**女性が働きやすい環境や制度の推進**」が続いた。
- ・しごと分野（企業や起業者への支援、農林水産業に関すること）では、「**次世代産業の育成・集積**」、「**農林水産業の担い手確保**」、「**中小企業等の成長力強化**」が上位を占めた。



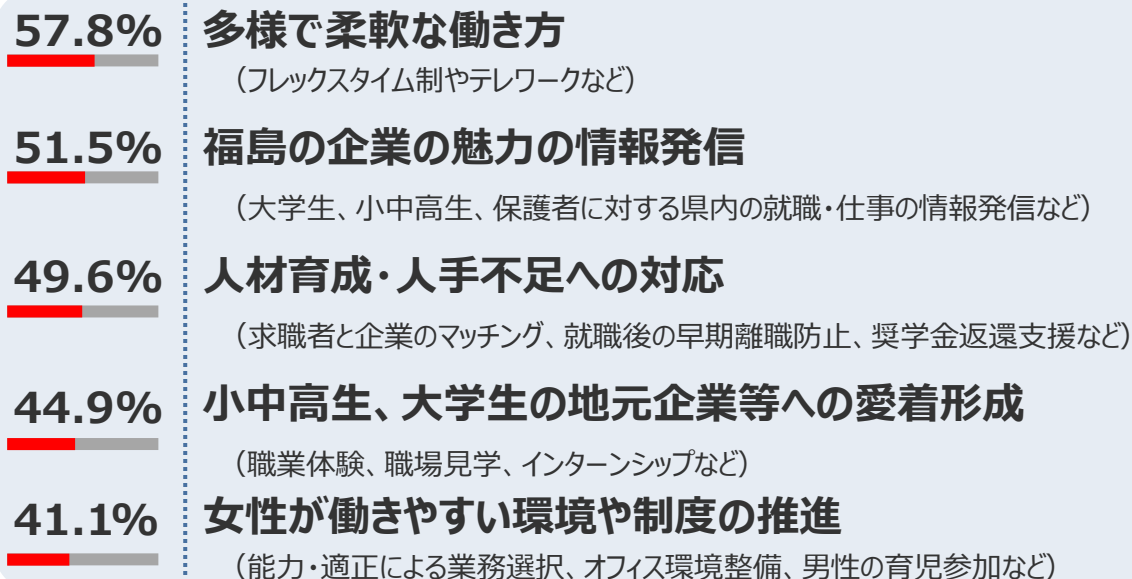
しごと分野

(回答者数=557名)

働き方や就職に関すること

(複数選択・3つまで)

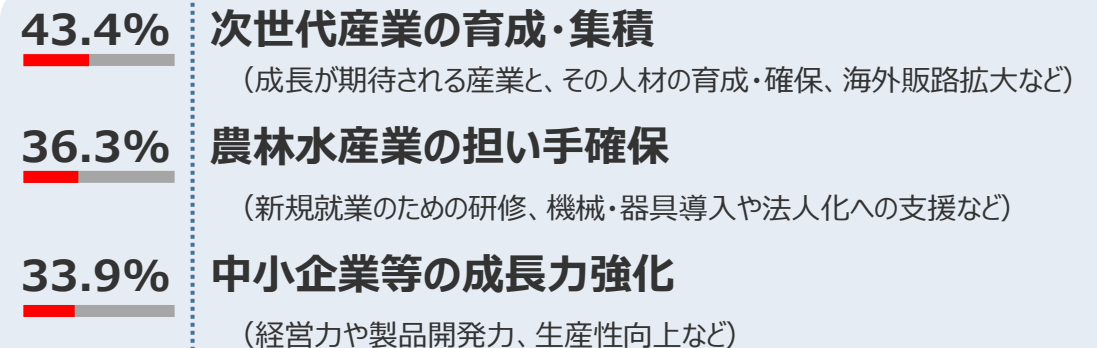
(回答者割合) ※上位5つ・回答者の3割以上が選択した項目



企業や起業者への支援、農林水産業に関すること

(複数選択・3つまで)

(回答者割合) ※上位3つ・回答者の3割以上が選択した項目



2 どんな取組が足りていないと感じているか

- ・人の流れ分野では、「**移住環境づくり**」、「**福島企業の魅力の情報発信**」、「**観光振興**」が上位を占めた。



人の流れ分野

(回答者数=557名、複数選択・3つまで)

(回答者割合) ※上位3つ・回答者の3割以上が選択した項目

59.1%

移住環境づくり

(移住者への住まいや仕事、地域住民のつながりづくりや移住後の定着支援など)

58.5%

交通ネットワークの整備・利活用促進と交流拠点の利活用

(道路網整備や福島空港、ローカル鉄道などの活用促進、
アクアマリンふくしまやJヴィレッジなどの交流拠点施設の利活用)

50.4%

観光振興

(福島ならではの観光資源の発掘・磨き上げ、
国内向けプロモーション、インバウンド促進など)

※参考・上位3つに続く4～6位の項目・回答者の3割以上が選択した項目

40.8%

移住につながる関係人口の創出・拡大

(首都圏等の本県出身者や企業・人材との関係性の構築など)

33.8%

移住希望者への支援体制と情報発信

(相談窓口や地域とのマッチング、移住者のライフスタイル発信など)

33.6%

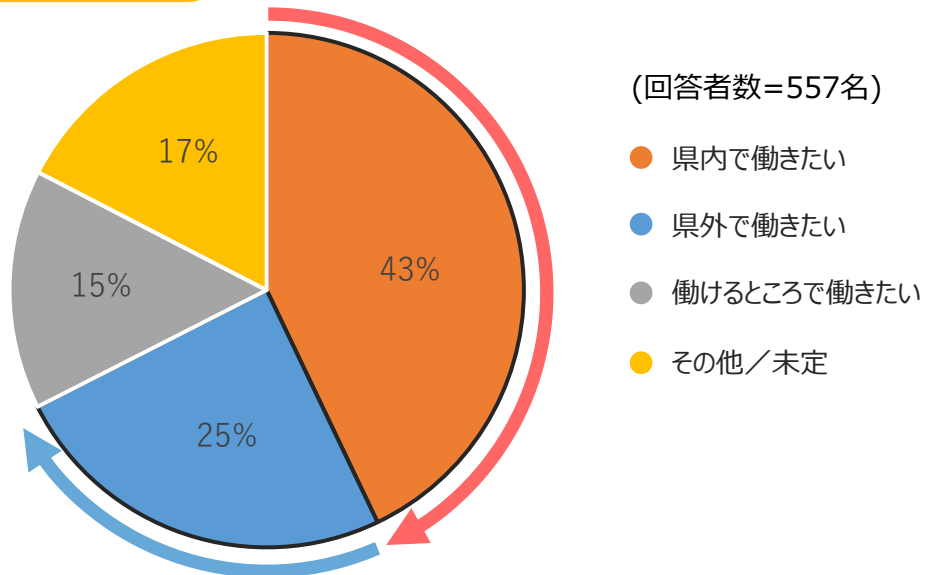
ふくしまとのつながりづくり

(ふくしまを応援してくださる国内外の方々や
企業・大学・自治体等との連携強化、
県内の企業・団体・自治体・学校等との連携など)

3 将来の進路等の意向に関する質問

- ・卒業後の将来の進路・就職の意向を問う質問では、「**県内で働きたい（県内派）**」と回答したのは回答者の**43%**、「**首都圏・大都市圏で働きたい、出身地に戻りたい（県外派）**」と回答したのは回答者の**25%**となった。
- ・**県内派**では、生まれ育った地域への愛着や、地域・地元へ貢献したいという意見や、人や自然環境（レジャーを含む）の魅力に触れた意見が見られた。**県外派**では、職業選択や待遇の観点、仕事・生活・趣味などの環境が充実しているなどの意見が見られた。

卒業後の進路



県内派43%
県外派25%

県内派・県外派の主なコメント

■ 県内派

- ・生まれた地で愛着がある
- ・生まれ育ってきた土地に何か還元したい
- ・福島に縁と恩を感じている
- ・人材不足だからこそ、県内で自分のできることを見つけて少しでも役に立ちたい
- ・大学から福島県に来て楽しいし、関東にはいつでも帰れる距離だから
- ・自然豊かでドライブなどのレジャーに良い場所がとて多いため
- ・福島の、人が穏やかなところや自然が美しいところが好きだと感じるため。
- ・福島県で生まれ育ち、地域の方々に支えられてきた経験から、将来は地元へ貢献できる仕事がしたい。
- ・福島が好きで、福島の人が好きで、よく知っている県なので、福島の人たちと楽しく働きたい etc.

■ 県外派

- ・地元へ魅力的な職場がない
- ・ITに関して魅力がない
- ・自分がやりたいことが首都圏にある
- ・興味ある/働きたい分野は首都圏に集中している
- ・給料の差
- ・交通が不便
- ・自動車など出費が多い
- ・最新の技術に触れやすく、人と関わりやすい
- ・できることの幅が広いと感じる
- ・仕事だけでなく趣味や旅行など私生活の充実させられる環境である
- ・福島にはないお洒落で楽しいお店や施設に気軽に行けるような地域で暮らしたい。
- ・仙台や東京と比べたときに、福島の方が良いと思わせるものが少ない
- ・多くの優秀な人が集まる
- ・福島は教育環境が整っていない

地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

3 将来の進路等の意向に関する質問

- ・就職活動で重視するポイントは、「給料」、「福利厚生」、「人間関係」に関する回答が上位を占め、「やりがいや挑戦しがいのある仕事ができる」、「将来性・成長性」、「自分のキャリアやスキルを活かせる」が続いた。
- ・就職活動をした(している)場合に、県内企業等に特に不足していると思うポイントは「給料の水準」が最も多く選ばれ、その他の項目は回答状況の分散が見られた。

✓ 就職活動で重視するポイント (回答者数=557名、複数選択・6つまで)

65.4%	給料の水準
54.6%	福利厚生の充実
51.3%	職場の雰囲気 (人間関係)
46.5%	やりがいや挑戦しがいのある仕事ができる
45.4%	将来性・成長性
38.2%	自分のキャリア・スキルを活かせる

✗ 就職活動をして県内企業等に特に不足していると思うポイント (回答者数=265名、複数選択・3つまで)

49.8%	給料の水準
20.0%	将来性・成長性
19.6%	勤務地 (住まいや生活の利便性)
17.0%	リモートワークやフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度の充実
16.6%	福利厚生の充実
15.8%	残業や休日出勤など長時間労働が少ない

- ・将来福島県で生活すると仮定した場合に求める条件では、「通勤・通学など移動の利便性」、「買い物の利便性」と回答割合が高く、「治安の良さ」、「物価の安さ」、「医療・福祉サービスの充実」、「子育てのしやすさ」が続いた。
- ・現状の福島に特に不足しているものとしては、「通勤・通学など移動の利便性」、「娯楽施設の多さ」との回答割合が上位を占め、次いで「買い物の利便性」が続き、以降の項目は回答状況の分散が見られた。

✓ 将来の福島県での生活に求める条件 (理想) (回答者数=557名、複数選択・5つまで)

67.1%	通勤や通学など移動がしやすい
57.5%	買い物が便利
46.3%	治安がよい
40.6%	物価が安い
35.7%	医療や福祉サービスが充実している
31.2%	子育てがしやすい

✗ 現状の福島県に特に不足していると思うもの (回答者数=557名、複数選択・3つまで)

49.2%	通勤や通学など移動がしやすい
43.4%	娯楽施設 (映画館、遊園地等) が多い
27.8%	買い物が便利
17.6%	物価が安い
13.3%	首都圏の企業に勤めながら福島で暮らせる
12.2%	趣味活動がしやすい

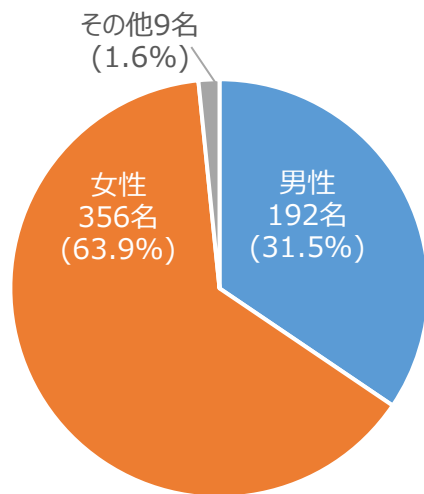
地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査
調査結果（速報）

【設問ごとと回答結果】

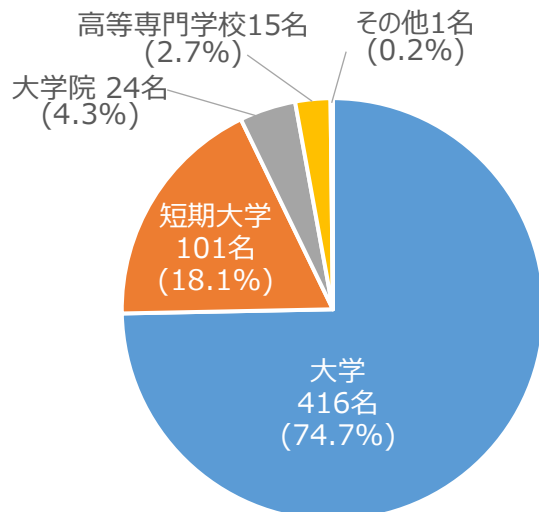
地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

回答者属性 (回答者数=557名)

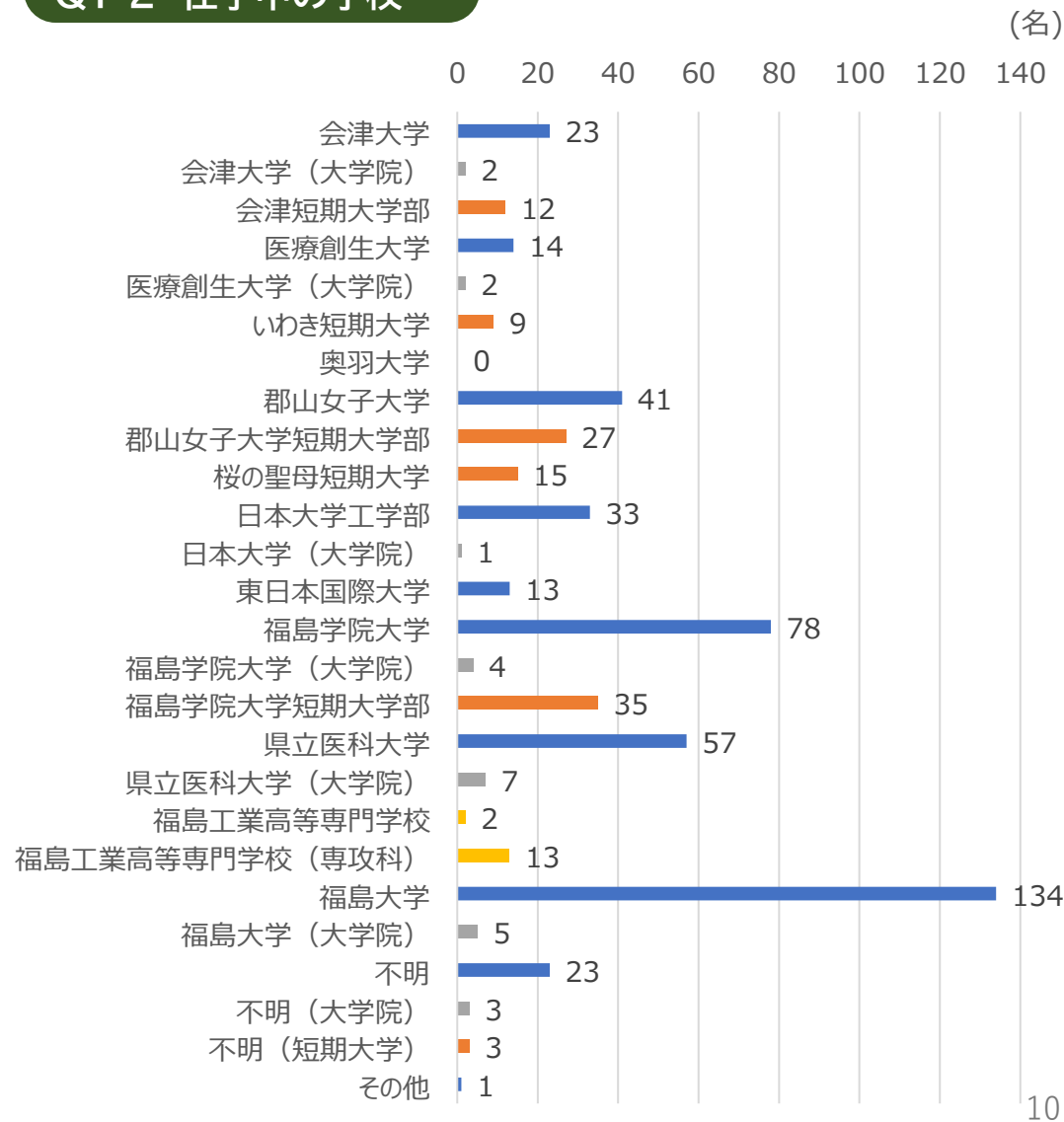
Q1-1 性別



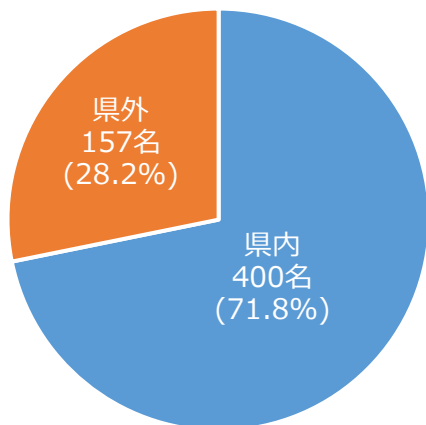
Q1-2 在学中の学校の区分



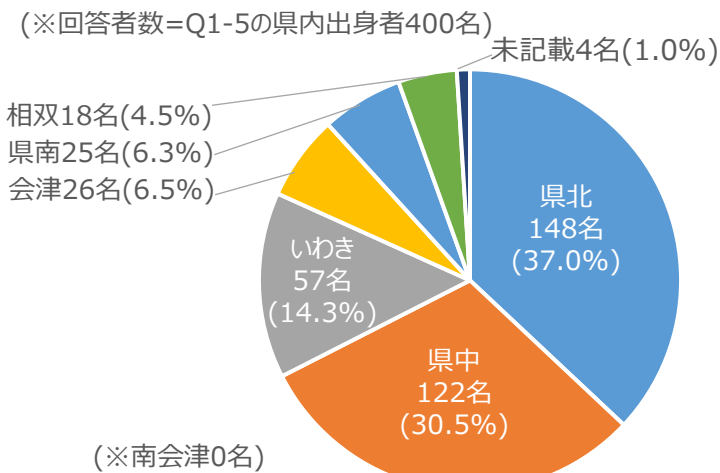
Q1-2 在学中の学校



Q1-2 出身地



Q1-2 県内出身者の出身地域

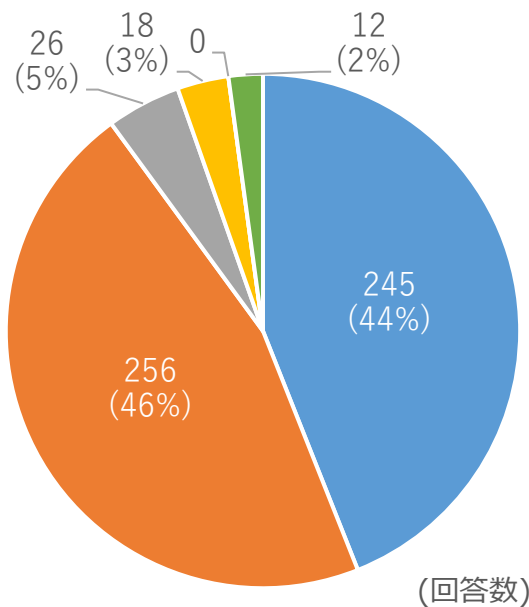


地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-1 人口減少の深刻度合い

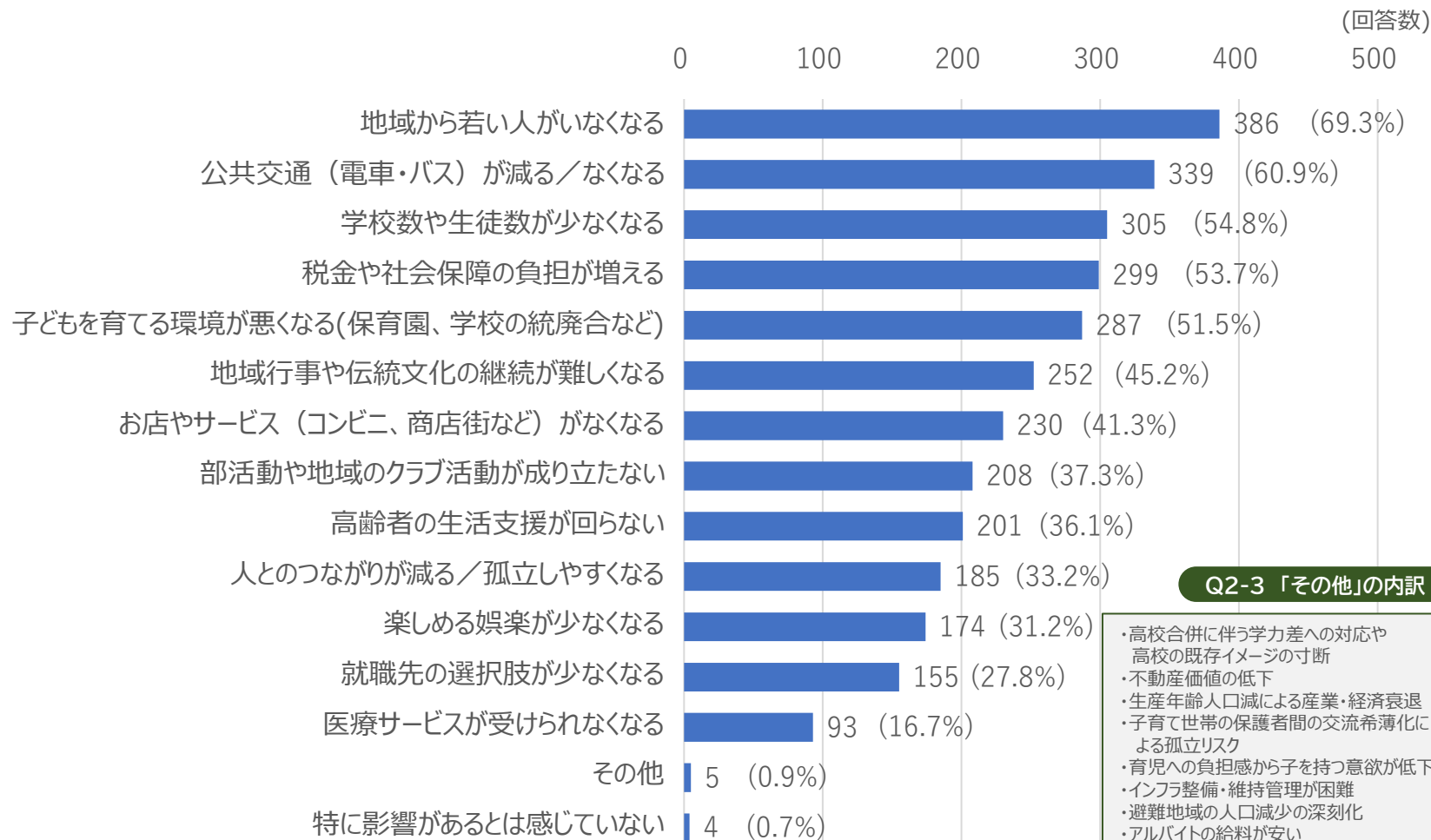
(回答者数=557名)



- とても深刻だと思う
- やや深刻だと思う
- どちらとも言えない
- あまり深刻だとは思わない
- 全く深刻だとは思わない
- 関心がない

Q2-2 人口減少の日常生活への影響

(回答者数=557名、複数回答)



Q2-3 「その他」の内訳

- ・高校合併に伴う学力差への対応や高校の既存イメージの寸断
- ・不動産価値の低下
- ・生産年齢人口減による産業・経済衰退
- ・子育て世帯の保護者間の交流希薄化による孤立リスク
- ・育児への負担感から子を持つ意欲が低下
- ・インフラ整備・維持管理が困難
- ・避難地域の人口減少の深刻化
- ・アルバイトの給料が安い
- ・日本全体の衰退・利益の減少 など

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-4 人口減少が深刻と感じる理由 1/3 (※217名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

深刻だと感じる理由

■全体

- ・このまま30年後の福島を想像すると住みたくない。
- ・周りの若者はみんな都会に就職している。こっちはやりたいことができる職場が少なく給料も低い。
- ・娯楽がない、移動がしにくい、若者が出ていく地域づくりがされている。
- ・自分の身の回り的人や自分自身の生活がいっぱいいっぱいに見える。
- ・浜の方に人がいない / 帰還困難区域やその周辺に大学でバスツアーで行った際、住民が戻ってこない話もよく聞いた。
- ・福島県の人口減少率が全国的に見て高い / 消滅可能性自治体が多い
- ・早々に解決できる問題ではないため深刻化していく一方の現状に不安を抱く。
- ・世界的に見れば人口は増加している。日本の問題は人口減少していることではなく、移民を全く受け入れない体制である。

■活気や若者にとっての魅力不足

- ・町に賑わいがなくなり経済も回らない / 夜でも駅前の歓楽街に人が全然いない / 駅前が閑散としている / 商業施設が閉店している
- ・企業や職場が減って、税収が減り、街の活性化が難しくなる。
- ・若者にとっての魅力が減っている / カフェや団らんでできる場所がない / 老人ばかりで活気がない。
- ・高齢者が増えることにはばかり目がいて、若者が軽んじられる時代のように感じる。
- ・若者がいないと若者をターゲットにしたものがなく、社会においてかれる。
- ・福島は若者にやさしくないから人口なんて減って当然なんだよ。

■現役世代への負担感の増加

- ・出生数が激減している。また税金が年々重くなり社会保障費の支払いと将来の自分が受ける保障が釣り合わないと強く感じる。
- ・少子高齢化によって、私たち若い人たちの税負担が増える。これは困りますね。
- ・少子高齢化が進んでいるのに、一人当たりの税金の負担額が増えてしまう。
- ・若年層の将来負担や現役の労働世帯の負担が増え、負のスパイラルに陥ってしまう。
- ・将来、年金が受給できなくなったり、納付した額以上の受給が期待できない。

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-4 人口減少が深刻と感じる理由 2/3 (※217名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

深刻だと感じる理由

■ 結婚・子育ての環境など

- ・結婚し、子供を産む人が少なくなったり、結婚しても子供を産まない人も増えている。
- ・子どもが減ることで保育士もいなくなる。
- ・児童数がすくなくなれば、子育て環境が悪くなる。

■ 教育・文化・伝統・スポーツ

- ・児童・生徒の不足により小学校や高校が合併している / 通える学校が遠くなってしまい、交通費なども深刻な問題
- ・小学校のクラスは自分の時より4クラスから2クラスまで減っている。
- ・自分の出身小学校が廃校になった。縁ある100年の歴史がこうも簡単に消えると悲しいですね。
- ・若者がいなくなることで、町のお祭りがなくなったり、小学校が統合されたり、昔から続いていた教育・文化・伝統が途絶えてしまうのを感じる。
- ・部活廃止や競技人口の減少でスポーツが成り立たない。

■ 働き手不足

- ・若い人が減り、地域コミュニティが維持できなくなり、自身の故郷がなくなってしまう。
- ・生産年齢人口の減少によって、立ち行かなる産業や経済圏が生じる。1次産業・2次産業、山間部は特にその懸念がある。
- ・高齢者人口が多く、福祉面の人手不足が深刻化している。
- ・アルバイト先の人手不足で、アルバイト一人当たりの負担が大きい。本文である勉強よりアルバイトに時間を割かれることもある。

■ 生活交通

- ・バスの本数の減少。運転手のなり手不足。運賃の値上げ。撤退にもつながる。
- ・利用者の減少が公共交通機関の不便さにつながり地域生活が成り立たない。

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-4 人口減少が深刻と感じる理由 3/3 (※217名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

深刻だと感じる理由

- 社会サービスの維持への懸念
 - ・人口減少は税収の減につながり、公共サービスに影響を及ぼす。
 - ・子どもや高齢者など社会的弱者が特に強い不利益を受ける / 十分なサービスが届かなくなる（買い物難民、医療難民、教育格差）
- インフラ
 - ・人手不足でインフラの維持管理が難しくなる / 使わなくなった施設や場所、空き家が多くなる。

「深刻でない」と感じる理由

- ・先進国では必然的に少子高齢化が進み、人口減少が起こる。だから、逆に途上国にはない環境を活かせば良いのではないかと思うから。
- ・歴史的に見て、ある程度発展した社会の人口減少は避けられない事象（他地域からの転入を除く）であり、少なくなる人口の中で、どうやって社会を回すか（コンパクトにしていくか）を考えればよいから。
- ・子どもの数が少ない小学校に授業をしに行ったことがあるが、良くないと感じることはないから。
- ・自分が育った地域がはじめて少子高齢化が激しく、人が少ない地域だったため変化を感じにくいこともあるが、人がいないから困るとは感じられない。訪問系サービスや宅配サービスなどが充実させられていると、人がいなくても困っていないと感じないからかもしれない。
- ・生まれ住んだ地ではないし、卒業したら地元に戻るため興味が無い / まだ自分は困っていないから。 / そもそも関心がないから。

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-5 人口減少の影響を身近に感じたこと、印象に残っていること

1/6 (※229名からコメント)

子どもの減少に関すること(1/2)

■ 学校のクラス数や生徒数の減少

- ・母校のクラス数が減っていた
- ・クラス数が少なかったり、定員が割れたりしている。
- ・小学校の入学式が1人だった。
- ・出身幼稚園・小学校のクラス数が少なくなっていた。
- ・県立高校の定員が減ったり、大きく減り続けたことで高校の統合が起きてしまったりしていること。
- ・高校(福島工業高)の時、(確か)2つ下の学年から機械科がAとBあったのに、一つのみになりました。
- ・自身の大学の入学生徒数が減少している
- ・学生の人数が少なく教室が余っている
- ・小学校へ進学する新1年生の数が少なくなっている。
- ・小学校の生徒数が減り、複式学級になっている
- ・中学校の時に7か8クラスあったのに、今では1クラスあたりの人数が減っているのに6クラス程度しかない。
- ・大学学生数の減少により大学運営の転換期となっている。

他多数

■ 学校の統廃合

- ・近所の小学校が生徒数の少なさにより今度合併する
- ・地元の小学校が統合され、通学距離が遠くなったこと
- ・中学校が統合された。
- ・人口減少による高校の統合
- ・地元の小学校や幼稚園の統廃合が起こっている
- ・幼稚園などが減っているという記事を見て、もし今後子育てに対する政策を行って出生率があがっても、入れる場所が無ければ子育ては難しいと感じた。施設の増設が難しいのであれば、せめて共働きにならなくても家計が保てるような環境を作らなければならないといけないと感じる。
- ・印象に残っている出来事としては、母親の小学校と高校が統廃合により、なくなってしまい、寂しく思っている様子を見たこと
- ・通っていた学校が統合したり、無くなったりする姿を見て、「地域の当たり前」が少しずつ失われていると実感した。
- ・自分が会津地方に住んでいたときに通っていた小学校が今年少子化で閉校してしまったこと。
- ・小学生の時と中学生の時に統合があった。
- ・小中学校と統廃合や、高校の定員削減
- ・大学の学部が減った
- ・福島大学附属幼稚園が募集停止になること。
- ・人口減少はニュースだけでなく、自分の暮らす環境にも静かに影響しているのだと感じた。

他多数

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-5 人口減少の影響を身近に感じたこと、印象に残っていること

2/6 (※229名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

子どもの減少に関すること(2/2)

■ 部活動などへの影響

- ・人がいなくて部活もなくなっていること
- ・スポーツをやるための人数が集まらない
- ・自分の母校の鼓笛がなくなった
- ・中学校や高校の野球部が他の学校と合同でチームを組むようになったこと
- ・大人数での部活動の減少と他校との連合化（野球、吹奏楽など）により生徒・児童の能力と可能性を最適に伸ばすことができない実状。
- ・中学、高校で先生の人数が足りなくて部活の顧問を複数担当している先生がいたこと
- ・私は吹奏楽部を小学生のときから続けているが、私が小学生だった時に比べて今は大会に出場する学校や人数がすごく減った。
- ・いわき市内の中高の合唱部の部員数が減っていること。（特に磐城桜が丘高校では合唱部員が2人になってしまいました。）
- ・自分が高校生の時に行われていた県北高校駅伝大会などの部活の大会が、人口減少の影響で行われなくなってしまっていること。

- ・部活の大会参加者数の減少（自分が中学の時に比べ減っている）。
- ・チームの人数が揃わない チーム数が足りなくて競技が廃止になる
- ・福島市の鼓笛パレードの人数の減少によるクオリティの影響

■ 子どもの減少を感じる場面

- ・公園で遊んでいる子どもたちがいない。
 - ・自分の時代よりも集団登校の列がだいぶ短くなった。
 - ・祖父母の家の近くでお年寄りが死んでって子供も少ない
 - ・震災後、短期間避難をした後に地元に戻ると、肌感覚として子供と子供のいる家庭が減っていた。
- ・地域を歩くがこどもに合わない
 - ・家の周りから子供を見なくなったことと登校班がいろんなところと年々合体していくこと

医療や保健等への影響

- ・市町村の開業医の減少（特に産婦人科医師がいない）
- ・小児患者の減少
- ・数年前にある地域において母子保健事業が成り立たなくなった事例があった
- ・高齢者が多いから病院とかが潰れてしまうことがよくある。かかりつけを何回も変えている。

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-5 人口減少の影響を身近に感じたこと、印象に残っていること

3/6 (※229名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

賑わいや街並みに関すること

- ・平日の駅前が静か
- ・福島駅前の活気がないように感じた。
- ・夜 20 時を過ぎると町が静かになってしまうこと
- ・アルバイト先の利用者が、高齢者ばかり。
- ・歩いていると高齢者しか見かけない
- ・生活していると、高齢者の方ばかり
- ・子供たちが外で遊んでいる様子を見かけなくなったこと。
- ・道を歩いたり、買い物をしたときに高齢者が多く感じる。子供はよく見るが、20,30代の働き盛りの若者をあまりみない。
- ・娯楽施設が少ない
- ・電車がないし遊べる場所が少ない
- ・いわき駅周辺に若者向けの娯楽施設がない
- ・すたれていく商店街を見て。
- ・コンビニが潰れた。
- ・市内店舗の閉店が相次いでいることなど
- ・お店が閉まったりしている
- ・商業施設が閉店する。
- ・品揃え悪い店多い
- ・子どもが好きそうな雑貨屋やおもちゃ屋に足を運んだことがあるが、子どもが少ないことも影響しているのか、売れ残りも見られたりして、店の運営は維持できるのかと思った。
- ・空き家が目立つ。
- ・空き家の問題
- ・空き家や土地など人の管理の行き届かなくなった場所が増えた
- ・近所が空き家だらけ。町内はまだまだ高齢者だけの世帯が多いのでどこまで空き家が増えるのかと、その点は心配です。
- ・出身地の道路が混んでない。新しい家があまり建たない。
- ・外国人が多くなってきていると感じている
- ・地元の駅が無人駅になったこと
- ・福島駅前から次々と大型商業施設が撤退し、活気が感じられないこと。
- ・福島駅前なのに空いている土地が目立つ。駐車場にすらならない。
- ・自分のアルバイトで働いているドラッグストアに高齢の方しか来ないこと。
- ・高齢者が多いこと
- ・スーパーに買い物に行くと同年代の人がいなく、高齢の方が多いと感じます
- ・地元に戻ると街を歩いている若者もお年寄りもあまり居ないなと感じた。
- ・駅の周辺はシャッター街で娯楽施設もない。
- ・商業施設や娯楽施設の少なさ
- ・駅前の商業施設に行ったら、高齢者が多く驚いた。若者向けの店が少なく、遊ぶ場所に困った。
- ・商店街が締め切り状態になっている。
- ・よく利用していたコンビニも閉店したし、以前は深夜まで営業していた飲食店も、今では早い時間に閉まってしまっています。
- ・お店が潰れる
- ・閉店していくお店が増えたこと
- ・周りのお店が全てしまっている
- ・地元に戻省するたびに、前あったお店が潰れている、もしくは新しいお店が建っているのをよく見かける。。
- ・居住しているアパートの空き部屋が増えた
- ・空き家が少し増えたこと
- ・2年間で近所の斎場が3つから5つになった
- ・周りの人間の態度が悪い。特に郡山駅前には刺青入れたガラの悪い奴らしかいない。
- ・こんな場所人が減って当然だ。それは役所の人間が1番理解してるはずだ。

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-5 人口減少の影響を身近に感じたこと、印象に残っていること

4/6 (※229名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

交通に関すること

- ・担い手不足や資金不足による公共交通の供給不足
- ・公共交通機関の減少
- ・公共交通機関の減便
- ・地方路線の廃線
- ・JR東日本東北本線の電車の本数がおおよそ1時間に一本であること
- ・通学に使っている電車が赤字となっていて、数年後には廃線となってしまうかも知れないと感じた。
- ・バスに乗る人が少なくなってきて土日がなくなったこと
- ・自分の最寄りのバスの時刻表が改正され、土日は全くない。
- ・高校の帰りの際のバスがどんどん少なくなっていった
- ・車を所有していないので電車やバスをいつも使っているが、本数が少なくて不便
- ・車の普及、住民減少でバスに乗る人が減ったため、学校に通うためのバスの本数が減り、値上げもされとても不便
- ・福島交通様のバスの1日に走る本数が少なくなったこと
- ・バスの本数が減り、行動しにくくなった。
- ・バスや電車の本数が減って運賃が上がった
- ・電車やバスの運賃の高さと本数の少なさ
- ・バスの本数が減
- ・バスの本数が減った、なくなった。
- ・バスの本数が減った
- ・バスの本数減便
- ・路線バスの減便
- ・電車、バスの本数が減っている
- ・授業が終わって放課後になって交通機関が1時間後がザラにある
- ・大学進学をきっかけに福島県に引っ越したのですが、最初に来た時電車の本数が少ないことに驚いて、これは人口減少の影響なのかなと思いました。
- ・いわきに行きたい時、免許センターに行きたい時、あまりに電車が少なかったこと。水郡線の本数が少なかったこと。長距離バスの運行休止が多いこと。
- ・以前、新幹線で郡山まで行って、そこからバスで会津に戻るルートを利用しようとしたことがありました。しかし、今年から郡山発の最終バスが21時から20時に繰り上げられてしまい、その日は仕方なく、予定を早めに切り上げて、時間は同じくらいだけど料金の安い高速バスを利用しました。
- ・私はいわき市の中の好間町に住んでいるのですが、いわき駅方面と好間町方面のバスの運行本数が劇的に減っていることが印象に残っている出来事です。
- ・相双地区は福島市や郡山市と比べて公共交通機関が充実していないと感じた。

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-5 人口減少の影響を身近に感じたこと、印象に残っていること

5/6 (※229名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

文化や伝統に関すること

- ・町のお祭りがなくなったこと
- ・お祭りの縮小
- ・地域の祭りが無くなった
- ・祭りの廃れ
- ・地域の祭りが無くなった
- ・子供会の解散
- ・子供会や自治会でのイベントの減少
- ・自分が幼かった頃、育成会などの地域行事は活発であったのに対し現在は子供の人数も減少して行事が無くなってしまっていること。
- ・これまで地域で行われていたソフトボール大会がなくなってしまった。
- ・コロナの影響もあるだろうが、恒例のイベントがなくなった。
 - ・毎年町で行っている夏祭りが規模縮小し、盆踊りと出店一個だけになった。
- ・今年から毎年やっていた夏祭りがなくなった。地元において楽しいこともない。
- ・地元で行っている祭りの主催者側の年齢が高齢化している
- ・地元の祭りの際に参加する人数が10年前よりもとも減った。
- ・夏休みにやっていたラジオ体操をやらなくなった
- ・これまで地域で行われていたソフトボール大会がなくなってしまった。

就職などに関すること

- ・若者がどんどん出て行ってしまっていること
- ・友人が県外に就職していること
- ・大学や就職先に魅力を感じないので都会に行きたい
- ・親族や知り合いが東京や関東圏へと出たいと言っているのを聞いた時、都市圏への人口の流出を感じた。
- ・学生への援助支援の少なさ等
- ・若者がみんな都会に行くこと。
- ・就職で人口減少を感じる
- ・大学で関東に出た友達が、就職先の候補が少ないため、福島に戻るのが難しいと話していた。

ニュースなどから感じること

- ・昨年新聞に載った30年後の人口統計。
- ・ニュースなどを見て。
- ・私が住んでいる町の人口が毎年減少し続けているから
- ・自分の住んでいる地域の人数が減少していること。
- ・出生数が70万人を切ったニュース
- ・テレビで少子化についてのニュースが昔と比べて良く報道されるようになったこと
- ・町の広報誌を見るたびに人口が減っていつている

(次ページに続く)

1 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q2-5 人口減少の影響を身近に感じたこと、印象に残っていること

6/6 (※229名からコメント。下記は要点を記載したもの。)

人手不足

- ・企業の人手不足。
- ・アルバイト先が人手が足りない
- ・バイト先で人手不足が深刻化しており、シフト制のため一人一人の業務量の増加、休日の減少が見られ、身近でも人口減少による人手不足が深刻化していることを実感しています。
- ・寒波が来た時、七日間断水した事。水道修理業者はパンクしていた。行政的な支援を求めて、市役所、水道局、警察など考えられる限りの行政機関に電話したがたらい回しにされ、結局何も解決しなかった。路面が凍結しており自転車が使えず、水の購入にも困難があった。
- ・あらゆる分野における後継者不足。
- ・アルバイトの人数が足りない。

農林水産業

- ・農林業について勉強していることもあり、従事者の減少や高齢化を毎日のようにデータとして見ている
- ・農家の継承者問題
- ・後継者がいないせいか分からないが、自宅近くの果樹園などが潰れているのを見て、少し悲しくなった

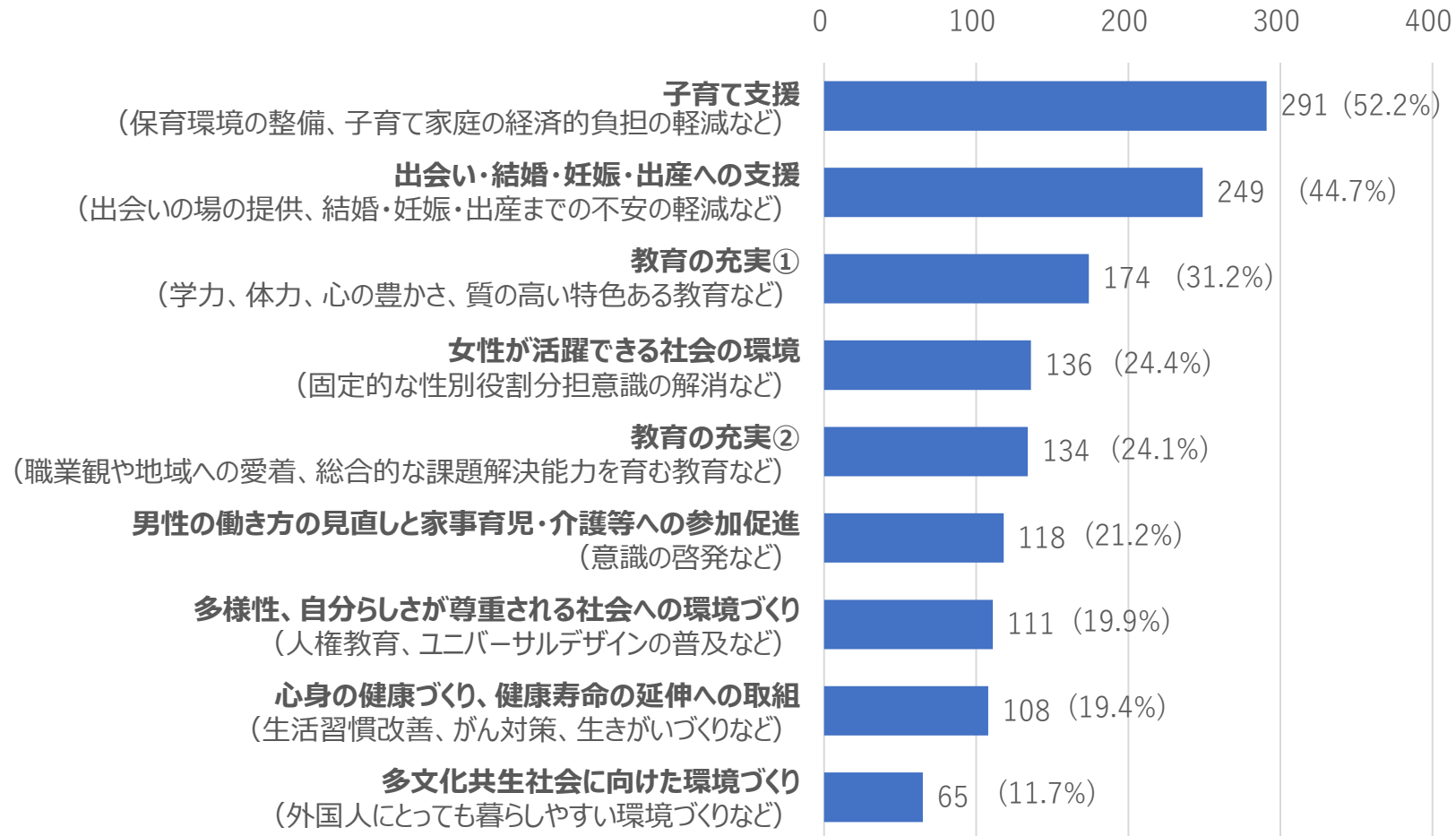
その他

- ・父親は早く（60歳）に退職したが、母親は遅く（65歳）に退職する予定であるため、予定とは違う人生設計となった。
- ・男女間での関係、特に性行為等に対する考え方が偏りすぎているように感じる。女子大の学生と話しているとかかなり拗らせているように感じる場面が多い。ネット上でもフェミニストなどの活動が盛んでそれに賛同する女性の意見が多数見受けられる。これは高校での性教育などで不安を煽るような内容ばかりなのが原因だと個人的に考えている。
- ・税金が上がった。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-1 【ひと分野】次の取組のうち、福島に足りないと思う取組はどれですか？

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)



2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-2 【ひと分野】Q3-1でそう感じる理由

1/5 (※111名からコメント)

■「子育て支援」を選択した回答者のコメント

- ・新しい命を生む立場の人をしっかりと受けとめてあげることが、定住に繋がっていくと思うから。
- ・未来を担う子どもが安心して生活できないといけなから。
 - ・子育て支援は人口減少にとって1番関わりが必要だと思う
- ・地域環境の不足部分が多い
 - ・一人で子育ては難しいため、地域などで協力し合いながら子育てできる環境は必要であると感じる。
- ・年収が高い子育て世帯の税金が重いのはおかしい。子供は少なくて良いと思ってしまう。また、若者特に女性が福島に残りたい理由がない。なぜこれから子供を産むかもしれない人が東京に行くのかよく考えて欲しい。
- ・子育てにかかる費用に比べて、給料などの入ってくるお金が足りないと感じている
- ・子供が増えないことの一番の原因は金銭的問題に関わるものが大きいと考えたから
- ・子育てにかかる費用が重いから。
- ・子どもを育てる場合の経済的な負担が大きいと思うため、子育て支援をさらに充実させて欲しい
- ・物価高や教育費、税金の負担の大きさなど、他にも理由はあると思うが、そういった面で子どもを育てる環境が準備できていないと思ったから。
- ・子どもにかかるお金は1人1000万だと言われています。現状、子どもの支援として出産された方にはお金が給付されていると聞きました。ですが、一番お金がかかる時期は、乳幼児期ではなく、高校や大学のときだと感じます。子どもを産んだからお金を渡すではなく、子どもたちがより沢山の知識を深められるよう、環境を整えるためにお金を支給する。という考えが広まって欲しいと感じたからです。
- ・子育てに関しては支援が充実していなかったり、今の日本での子育てには不安しかないため少子化を招いている
- ・少子化が進む中で、安心して子どもを産み育てられる環境が整っていないと、将来的に地域社会の活力も低下すると感じている。保育施設の不足や子育てにかかる経済的負担は、若い世代にとって大きな不安材料だと考える。そのため、子育て支援の充実は、人口減少対策の一環としても非常に重要だ。
- ・東京都や明石市などの子育て支援などと比べると非を感じる
 - ・伊達市以外で子育て支援が手厚いという話を聞かないから
- ・子育ての悩みが改善されてない人がいるから。
- ・子育てについてはまだしたことがないが、選べる保育施設が少なく自分の働き方と育て方どちらの理想も叶えるような子育てはできないから、子育てをするときは県外に出ようと考えている。
- ・子供が減っているため、保育園などがなくなったりと不便な点が見られるから
- ・子育て支援は、根本的な問題の、幼稚園の先生の給料をあげる政策や、なるための資格補助をもっとやっていかないと行けない部分だと思うし、最近では、教育者のガバナンスをしっかりとした方がいいと思う。こういったことをすれば、環境は、変わるのではないかと思う。家庭への経済負担も見直すべきだと思う、あるネットニュースでは、子供一人あたり2000~5000万かかると書いてありました。どう考えても、若者が育てて行けるような気はしません。なので中学生までは、食事代という部分は、負担すべきでないかと思います。1日の食事代が2000くらいだと考えると、1年で73万もかかります。この部分を負担するだけでも、大分育てやすくなるのではないかと思います。
- ・田舎だと通学が子供にとっては距離、親にとっては送迎などで負担になるから
- ・運営の質が悪い

(次ページに続く)

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-2 【ひと分野】Q3-1でそう感じる理由

2/5 (※111名からコメント)

■「出会い・結婚・妊娠・出産への支援」を選択した回答者のコメント

- ・出会いが少ない
- ・政府がやってくれないなら県が先進的な子育て支援をしてほしい
- ・偏差値の低い学校程、妊娠年齢が低かったり、彼氏彼女がいる人が多いため、教育の質が高くなりすぎているのかもしれない。
- ・結婚をして子供を産み育てたい人がいたとしても、まずは出会いの機会がないと意味がないから。
- ・金銭面で余裕がないので交際費などに出費することが難しくなっているから
- ・結婚に対する意識や出会いの場が少ないと思う
- ・子育てをしながらお金を稼ぐのは大変だと感じるから
- ・結婚減少、都会での就職が増えているから
- ・出会いについて、男女問わずに世の中には、異性を意識し始めてから会話ができない、避けてしまうと、シャイな方が多くいます。教育課程に道徳を名目に置いたコミュニケーションの場を設けるべきと考えました。

※「子育て支援」、「出会い・結婚・妊娠・出産への支援」に関する総合的なコメント

- ・市町村ごとの支援は地域によって差があり、福島県内全体として見た時に金銭面をサポートする支援が少ない
- ・子どもを産み育てる側にとって、決して今のままの対応では快く育てることができない。出産に関する費用を助成するとか、あまりにも子育てでいくらお金がかかるかどれほど大変なのかをまるでわかっていない。これではダメです。
- ・子育てや出会い結婚等の支援は、自治体間で取り組みの差が激しく、よりよい成果を出している自治体を見習い、県として目指すべき水準や取り組みの方針をもう少ししっかり考える必要があると感じた。
- ・人口を増やすには妊娠や出産、子育ての支援が必要不可欠であるから。
- ・少子高齢化によって、子供の数が減っているから。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-2 【ひと分野】Q3-1でそう感じる理由 3/5 (※111名からコメント)

■「教育の充実①」、「教育の充実②」を選択した回答者のコメント

- ・これから生まれてくる子供たちへの支援は地域を成り立たせるうえで必要不可欠だと考えるため。
- ・福島では十分な教育が出来ないという理由で県外に引っ越し人を見てきたから。また、1回外に出た人は福島にほとんど戻って来ないから。
- ・特に中学校は義務教育で公立であるにも関わらず学力や教育の質の差が激しいと感じます。
- ・みんな地元愛がないから都会に出ていってしまう。もっとこのままここで住むと思える地域ならみんな残ると思う。主に高齢者中心だからあまり地元愛が生まれないと思う。
- ・県外への就職を考える知り合いの姿を見て、自治体が、いわゆる地元愛のようなものを育てていないのかと感じた。
- ・学力の格差が都市部とある。会話のレベルが異なる気がする
- ・学力が都道府県別で下位にある
- ・教育における地域間格差を大学で県外の友人と話した時に感じるから
- ・総合学力の低さがワーストから数えた方が早いため。
- ・「福島県は学力が低い」と言っているのをよく聞くからです。
- ・福島県は全国学力テストの順位が低いほうなので、質のいい教育をするべきだと思う
- ・全国平均よりも学力が低いことや肥満児童が全国よりも多いから。
- ・教育格差が、県内の高校生の人生を抑圧していると感じる。県内に魅力的な高等教育の機会がなく、頭脳流出を招いていると感じる。
- ・学力の高い学生の受け皿は、県内には福島医大医学部のみであり、他の分野を志す学生は県外に進学していきます。
- ・いきたいと思えるような大学がない
- ・教育環境が都市部に比べて劣る
- ・福島に限った話ではないが教員の人数の減少が著しい。
- ・うちには小学生の姪が同居している。学校での活動や体育などの話を聞いていると驚くようなことが多すぎる。具体的には長距離走が圧倒的に短くなり、部活やクラブ活動が安全重視になり、水泳の参加は自由など、、明らかに最近の子供は弱体化しているのを感じる。特に水泳は決まった時間受けないと(見学は計上しない)卒業できないなど、生きる上で必要な能力や経験は絶対にやらないとダメだと思う。
- ・医大に来て、福島の高校出身の人の学力の低さに驚いた。もっと外に目を向けて、海外との交流なども図り高みを目指すべきだと思った。大学入学後外国との交流の機会が一切なくなり、多文化への理解を深める教育が福島では圧倒的に足りていないのだと気づいた。
- ・教育において、高校で自由がなかったし心の豊かさを育むよりむしろ精神的苦痛を感じるが多かったから。自分らしさ(進学したいと考える学校)を否定されて国公立に進むように言われ、夢を否定されたとかんじているから。
- ・心の豊かさ、総合的な課題解決能力が備わっていればどこでも生きていける。⇒東京や仙台などの都市部に出なくても良くなる。
- ・出身高校が心の豊かさを尊重していなかった。怒鳴られていたり正座させられたりしたことから当時の経験から教育は充実していないと感じた。
- ・惰性で自分の選択を決めているように見える人が多く感じるため。もう少し踏み込んで情報を確認したら他の選択肢があるのに、もう少し視野を広げたら、諦めるようなこと無く、自分の為になることができるのに、はじめから無理だと言って、損をすることが分かっていることをするのはどうかと思う。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-2 【ひと分野】Q3-1でそう感じる理由

4/5 (※111名からコメント)

■「女性が活躍できる社会の環境」、「男性の働き方の見直しと家事育児・介護等への参加促進」を選択した回答者のコメント

- ・女性が安心して生活できる場が少ないと感じたから。
- ・福島には女性などが活躍出来る場所が少ないと感じたから。男性は家事や介護などへ参加しない、又は意欲が全くないと家族と暮らして感じた。
- ・女性の社会進出が進んでいるにも関わらず、家庭内の仕事は女性が担当していることが多く、男性の家族活動への参加が少ないため、社会が率先して男性の家庭参加を促すべきだから
- ・男性の育児休暇などやっていますよと言いますが、たかが知れてる期間しか休みを貰えないという点を変えていくべきではないですか。まず代表して、公務員から変えることにより社会のお手本のような行動をすべきです。そして、中学生までの家庭の父親は、なるべくフレックス制を導入すべきだと思います。
- ・若い知人女性たちが「福島は働く場所がない」と関東に出て行ったので。
- ・妊娠により、昇進しずらかったり、給料も男性よりも低かったりと、女性が男性よりも仕事において冷遇されていること
- ・管理職や議員が男性（それも高齢）であることが未だに多いため、固定概念や無知が蔓延していると考えられるため
- ・実状について詳しく知っているわけではないが、都市部の企業に比べると、社会における男女の固定観念のようなものが強いと感じている。
- ・安心できる環境にあることが最優先だと思うから。 ・新しい命を生む立場の人をしっかりと受けとめてあげることが、定住に繋がっていくと思うから。
- ・女性が主体となっていない。 ・人手が足りなくなってきたから。
- ・自分の父母を見て ・昔からのジェンダー思考が強い
- ・日本は、ジェンダーギャップ指数の数値が低く、先進国の中でも劣っているので、男女平等な取り組みが必要だと思います。
- ・まだ昭和的考えを持つ人々が多くいる地域もあるから。 ・田舎特有の男尊女卑みたいな意識があると感じることがあるから。

■多様性、自分らしさが尊重される社会への環境づくり

- ・「多様性」という目標は目にするが、具体的な取り組みをあまり把握していないため。
- ・LGBTQの人への人種差別や、性別関係なく人権否定的な発言をされることやされていることが多いと感じるから
- ・多様性を尊重する環境づくりは、誰もが安心して暮らせる社会に必要なと感じたから。どれも日常生活に直結しており、支援が足りないと不安や孤立につながると感じます。
- ・高校で自由がなかったし心の豊かさを育むよりもむしろ精神的苦痛を感じるが多かったから。自分らしさ（進学したいと考える学校）を否定されて国公立に進むように言われ、夢を否定されたとかんじているから。
- ・地域によって差を感じる。ユニバーサルデザインに関しては、自身の地域であり見かけないように感じる。
- ・ユニバーサルデザインが少ないと感じる町の周りを見ても少ないと感じるからである。
- ・昔からある建物だとスロープなどが設置されていなかったりと不便な点が見られるから
- ・古い建物が多く残っており、階段のみの建物や多目的トイレがない建物・公園がある。
- ・取り組みを県内で見かけることが少ないため

2 2. どんな取組が足りていないと感じているか.....

Q3-2 【ひと分野】Q3-1でそう感じる理由 5/5 (※111名からコメント)

■「心身の健康づくり、健康寿命の延伸への取組」を選択した回答者のコメント

- ・メタボ率がワーストから数えた方が早いから
- ・市民が気軽に利用できる運動する施設がない
- ・健康寿命の延伸や生活習慣の改善は、医療費の抑制にもつながり、社会全体の負担を減らすことができると思う。
また、健康を維持することで高齢者も地域でいきいきと過ごすことができ、世代を超えたつながりや支え合いのある地域づくりにもつながると感じる。
- ・自殺者が都道府県別で10番目に高い
- ・福島県を拠点とした生活の中で心の健康が壊れたから
- ・福島県は不健康なランキングでいつも上位にいるから
- ・福島県の喫煙率であったり、食塩摂取量の多さなど健康意識について改善する必要があると思ったから
- ・福利厚生で健診の補助がなかったり少ない会社が多い気がするから

■「多文化共生社会に向けた環境づくり」を選択した回答者のコメント

- ・海外の方への支援は地域を成り立たせるうえで必要不可欠だと考える
- ・福島県で生活していくための環境が整っていないと、定住人口が増えないから。
- ・もっと外に目を向けて、海外との交流なども図り高みを目指すべきだと思った。大学入学後外国との交流の機会が一切なくなり、多文化への理解を深める教育が福島では圧倒的に足りていないのだと気づいた。
- ・日本は人口の減少ではなく、移民や外国人の受け入れを全くと言っていいほどいないところが問題であるからである。
- ・震災の影響で、まだまだ風評被害がおさまっていないため
- ・外国人に住みやすい社会に関してでいうと、地域社会でいきる上で暗黙的に強要されるルールを守れるかが住みやすさに関わってくると思う。普段から信号無視したり、道路を横断したりするような人に親切にしない人が多数であるように。ピクトグラムは外国人にも伝わりやすいのかもしれないが、他の地域に住む高齢者やロービジョンの人にはかえって障害なので、事前にルールは担当者を決めて確認するなどしたらいいと思う。それで守らなくて、住みにくと感じるのは本人の責任になるから。
- ・外国人を普段あまり見かけることがなく、暮らしやすい環境づくりの取り組みとはどのようなものか気になったため。

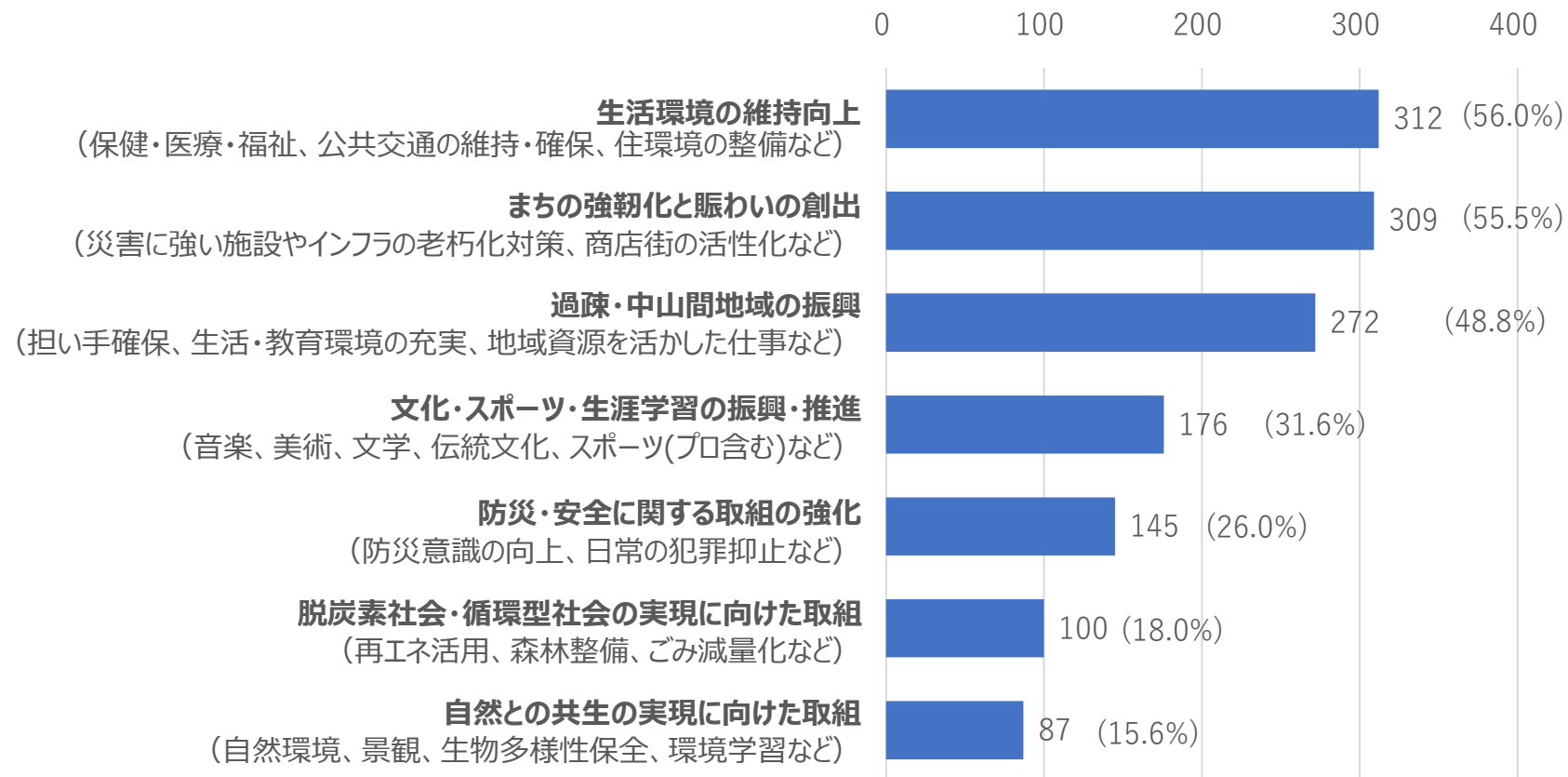
■全般的な意見

- ・若い人にとって魅力的なまちを作っていくことを優先すべきと思う。若い力があれば大体の問題は何とかなると考えている。
- ・福島県の場合、若い人が福島県外に出てしまっていると感じており、若い人が魅力を感じると思える環境を作るべきだと考えたから
- ・子育て支援や健康づくり、多様性を尊重する環境づくりは、誰もが安心して暮らせる社会に必要なと感じたからです。どれも日常生活に直結しており、支援が足りないと不安や孤立につながると思います。
- ・福島県の統計を見ると特に若い女性の転出者が多いため、若い女性が生きやすい、働きやすい環境が足りていないのではないかと感じたから。
- ・出産・育児や教育の支援を必要としている人のサポートが必要だと思う
- ・どれも実行はされているが、今ひとつ足りないと思うため。
- ・福島に残りたいと思うような取り組みをする必要があるから。
- ・福島で生きる、学ぶことのメリットが見えてない。「だから福島」がない。特に福島市は中途半端。
- ・福島県は様々な魅力はあると思う。しかし、ここに継続して住みたいと感じるような魅力は少ないように感じた。
- ・人口減少しているのに、就職を期に更に県外への流出が著しい
- ・私の経験上、今まで生活して出会ってきた同級生、先輩、後輩含めて福島県から出たいと言っている人が7割を超えているから
- ・就職などをする際に県外就職先を選択する人が増えていると感じるから

② どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-3 【暮らし分野】次の取組のうち、福島に足りないと思う取組はどれですか？

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)



2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-4 【暮らし分野】Q3-3でそう感じる理由

1/5 (※120名からコメント)

■「生活環境の維持向上」を選んだ回答者のコメント

- ・バス、電車賃が高い。本数が少ない
- ・鉄道やバスの本数が少ない
- ・福島交通の運賃上昇、本数減少。公共交通の地域間格差がある。
- ・減便が行われていたり、対策をしてもどんどん問題が深刻化しているため
- ・福島交通のバスの遅延が激しすぎる
- ・公共交通サービスでは、雨風で運休する頻度が多いため。
- ・公共交通機関が発展してなくて、車なしでは生活できないところが不便と感じる。また、高齢者がそのような理由で運転しているため、たまに危険な運転を見かけて悲しい気持ちになる。
- ・福島県は福島市が県庁所在地なのに対して余りというか全く動きが感じられない。公共交通維持しますって言うわりに減らしてみたり無くしてみたりして矛盾だらけだと感じるから。
- ・採算性がとれなくなるとは言え交通インフラが足りなければより減少に歯止めが効かないことも考えるとコンパクト化してでも郡山、いわき、福島市あたりは質を維持すべき
- ・公共交通に関しては、白線が消えかかっている場所が多く危険を感じている。
- ・歩道があまり丁寧に舗装されていないように思われる。自転車を運転する時事故を起こしそうで怖い。
- ・バスは運賃が高いし、家から学校まで電車に乗るにも駅まで自転車で行かないと無理な距離なのに県道や市道では道端の草木が歩道まで生えており整備されていない場所が多い。
特に高校生以下は車の運転ができないので自転車での通学になるが自転車利用者の事を考えた交通インフラが整っていないのに自転車の取り締まりが厳しくなるのは県民にとっては理不尽である。
- ・駅前の渋滞
- ・公共交通の廃止(電車やバスの廃線)や、水道等の老朽化も進んでおり生活環境の維持向上も重点的に取り組む課題である。
- ・医療やインフラ、道路整備、空き家問題もあると思います。
- ・車で運転しないと来れない距離にしか病院が設置されていない。
- ・医師不足は理解しているが、居住地から行ける病院の選択肢が少なく、セカンドオピニオンを探すには、福島県外を考える必要がある。医者への賃金を上げたりして大学病院にもう少し人が来るようにしてほしい。
- ・高齢化が進む中で、医療・福祉の整備は欠かせない。
- ・医療の面でも夜子供を受け入れてくれる病院を増やすべきだと思う。
- ・保健福祉では介護施設が空き待ちである。
- ・喫煙所の数が多いのも気になります。そもそのたばこに対する健康リスクの啓発運動も他の市町村と比べて見かけない気がします。
- ・生活環境の「維持」は、正直難しくなっていくと思います。人口減少と高齢化により、行政サービスと市場サービスの縮小が大きくなっていき、生活環境の基盤インフラの質の低下は免れないでしょう。生活環境の「向上」のためには、コンパクトシティ的な政策を、市町村規模ではなく、県全体の規模で行う必要があると思うのです。福島駅前再開発の成り行きを見ていると、福島市には民間の投資を呼び込むほどの魅力はないようです。もし、県内の行政機関や学術機関を郡山市に集中させれば、規模の経済が働いて民間の投資を呼び込めるのではないのでしょうか。県内の「一部地域」にリソースを集中させ、結果的に人口の集中を引き起こせば、その地域の生活環境は向上するでしょう。
- ・蒸し暑い

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-4 【暮らし分野】Q3-3でそう感じる理由 2/5 (※120名からコメント)

■「生活環境の維持向上」を選んだ回答者のコメント

- ・どうしても交通の利便性で東京と比べて劣る点がある。欲しいものが売っている店がないから東京へ行く。
- ・福島は東北新幹線があるため比較的東京や仙台などといった都市にリーチしやすい。そのため生活のしやすさの改善はそのまままちの発展につながると思う。福島は地域ごとに生活環境が大きく異なるため、地域に適した住みややすさを追求する必要があると考えている。なので私が研究します。
- ・浜一中一会津間の行き来がしにくい。⇒若者が縦方向に流出していると思う（浜通りなら仙台あるいは茨城県、中通りなら仙台あるいは東京、会津だと新潟など）⇒県として横につながって若者が住む場所を県内で選べるようになると少し違うと思う。
- ・福島は国道4号と高速が封鎖されたら他県と孤立し、食糧などの資源が枯渇してしまう。また、普段からも渋滞がすごく不便。なのに改善されない。4号以外の道路も作るべき。こんな交通網が悪いのに特別な理由がない限りわざわざ他県からか来ようとは思わない。
- ・福島県は全国3位の面積と広く、いわき地域から只見や西会津地域と広く、それぞれの地域間や地域内の移動が大変なため福島県への観光促進のためのインフラ整備がまず必要だと感じます。例えば会津縦貫道が出来れば日光鬼怒川エリア-南会津エリア-会津、喜多方エリア-米沢方面といった観光経路が活性化することが考えられます。実際東北中央道開通によって自分は福島市から相馬地域に楽に移動でき観光をする時間が増えました。また、音楽堂など素晴らしい施設もあるのでより演奏会活動や音楽教育を促進し音楽の街としてのブランディングもできるかなと感じます。さらに、山間地域が多いことは大変なこともある一方キャンプ 釣り ドライブ スキーなど自然を楽しむアクティビティにとっても向いていると思います。羽鳥湖や桧原湖周辺などの観光地ももっと魅力を創造できるかなと個人的に感じています。
- ・理由ではなく訴えです。1,インフラ整備において、例を出します。福島市にある商業通りは、夕方になるとほぼ毎日混みます。その北にある、JAのある通りも混みます。この2つの道路を2車線にできたら、13号線の混み合いも減るだろうと考えます。東日本大震災は15時頃、つまり夕方になりつつある時間でした。道路の混み合いは災害から逃げるのに重大なハンデとなり得ます。特に、ハザードマップと都市部の交通が混む場所を比較して、真っ赤なところのインフラ再建設は早急にやるべきと考えます。2,地盤安定化も含めて、都市部にある河川の両側に木を植えるのはどうでしょうか？コンクリート破壊の可能性があります。どちらにせよ河川の両側の壁の寿命は短いはず。また、吾妻山が仮に噴火したとして、河川に限らず木があれば、爆風や溶岩の流れの速さを軽減することも可能だと考えます。台風の風の強さの軽減、洪水発生時の早期回復も、私には知識はありませんが、可能性としてあげられると思います。3,福島市から白石市、福島市から浪江町までドライブした時、当然のことですが、福島市より大きな店が少なかった印象です。スーパーはある程度ありましたが、娯楽施設やマクドナルド、はま寿司等のメジャーな飲食店が少ないイメージでした。生活支援、住宅支援等があっても、その地域に住みたいという可視化された魅力、県としての投資能力が無ければ、Iターンと人口減少(少子化)は加速すると考えます。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-4 【暮らし分野】Q3-3でそう感じる理由

3/5 (※120名からコメント)

■「まちの強靱化と賑わいの創出」を選んだ回答者のコメント

- ・福島駅前は何もないなーと感じる（若者が楽しめるような施設）
- ・娯楽施設が何も無い
- ・楽しくない
- ・18歳女子が住み続けたいと感じられる地域、都市圏よりも魅力的な街である抜きでたものがない。「だから福島」がない。
- ・大きいビルやデパートなどの取り壊しが多いと感じる。また、駅前などに遊べる場所が少ないのではないかと感じる。
- ・何でもかんでもイベントが過疎ってる。福島復興プロジェクトで一瞬盛り上がったが、最近は惰性でやってるだけで賑わいが無い。もう福島県は浮上できないと思っているので自分も県外、または国外に就職しようと考えている。
- ・福島駅前などの活性化が足りないと思うから。
- ・まちの賑わいが少ないように感じているから。
- ・駅前が賑わっていないように感じる。
- ・中合やイトーヨーカドーなどの大型商業施設の撤退が相次いでいるため
- ・中合をなくしたから。駅周辺の過疎化。
- ・駅前の繁華街のごみは多く、景観の悪化にも繋がる。
- ・ここやってるの？と感じる店が多い。駅前の繁華街の環境に良いイメージがない。（汚い、臭い…）鳥の糞被害がすごい。
- ・福島駅東口の再開発に加え、西口でも商業施設がなくなり、中心地であるはずの駅周辺地域に行きたいと思えないから。福島を象徴するものもなく、また地元の人々が集えるような場所にもなっていないから。
- ・駅前のシャッター商店街が多い
- ・シャッター街や空き家、つぶれた温泉が増えていて街が廃れてきているように感じた
- ・郡山駅前近くの商店街がいつも閑散としているイメージがあるから
- ・駅前のビルの老朽化
- ・金谷川に商業施設がなさすぎる
- ・インフラ整備について、工事が止まっている状態を見かけるため
- ・歩道があまり丁寧に舗装されていないように思われる。自転車を運転する時事故を起こしそうで怖い。
- ・特にインフラに関して、管理が徹底できていないように感じる。歩道があるのに植物がはみ出して人もすれ違えないような状況がすでに3か月以上続いているところが合ったり、徒歩で登下校する人間がいるのに街灯の数が明らかに少なかったり、道路は穴のようにへこんでいるところがたくさん見受けられたりしているためである。
- ・福島市役所隣に新設された福島市民会館も「誰のための何？」。ホール狭すぎ。
- ・娯楽施設などの魅力は少ないと思います。
- ・映画館や遊園地など娯楽が少なすぎる。あったとしてもしょぼすぎて他県へ行くことになる
- ・人がいないから。
- ・街の活性化について、現地住民のニーズを取り入れられていないように感じるため
- ・福島駅前の活気のなさ、市役所の隣の建物や駐車場を優先された気がする
- ・福島駅周辺の賑わいの形骸化
- ・福島駅前の空洞化は、あまりに象徴的な福島の没落を表す。
- ・駅前の開発失敗など
- ・駅前の飲み屋のイメージしかない。
- ・地元の商店街がシャッター化しているなか、新たな大きめのお店がどんどん建っているため余計シャッター化しそう。
- ・特定の場所（例えばイオンモール）は賑わっているように感じるが、商店街はシャッターが閉まっていて活気がないように思う。
- ・郡山駅前の商店街が廃れているからです。
- ・建物の老朽化が進行しており、危険な地域も見られると感じているから。
- ・駅前や伊達のイオン、サッカースタジアム建設など全く話が進まないことが多いと感じる。
- ・住宅街なのに都市ガスが引かれていないから。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-4 【暮らし分野】Q3-3でそう感じる理由

4/5 (※120名からコメント)

■「過疎・中山間地域の振興」を選んだ回答者のコメント

- ・過疎地域が多いのに、解決できていないから。
- ・過疎地域を活性化することで新しい世代が入ってくると考えるため
- ・過疎地域の状況及び状態を知る機会が少ないと思うため。
- ・地域など人口減少が深刻であると習い特に過疎の地域等が自分達にはみえない部分では深刻ではないかと思うから。
- ・私の地元において担い手の確保ができていないと感じないから。
- ・県には、過疎中山間地域で担い手となる交流人口創出や、過疎の進んだ地域の就活等の具体的な政策を求めたい。
- ・田舎、農村地域は一部振興を見せているところはあるが、ほとんどが自力でどうにもできない状況にあると考えられるため
- ・中山間地域では、若い世代の定住が難しく、担い手不足が深刻だと思う。地域資源を活かした雇用や、子育て・教育環境の整備を進めることが、人を呼び戻し、地域の活力を守るカギだと感じる。そのため、こうした地域への支援と振興は今後ますます重要になると思う。
- ・過疎地域などでは、地域の運営に限界がある部分が多いから。
- ・過疎地域と中心部の支援サービスに差があると思うから。本当に必要な地域に支援を提供する必要があるから。
- ・地域との交流もできない。地域も店もイベントをやらないから人が集まらないと思った。
- ・山間地域が多いことは大変なこともある一方キャンプ 釣り ドライブ スキーなど自然を楽しむアクティビティにとっても向いていると思います。羽鳥湖や桧原湖周辺などの観光地ももっと魅力を創造できるかなと個人的に感じています。
- ・大きな都市（福島市、郡山市、いわき市など）はかなり賑わっている。しかし、少し外れた地域では高齢化と過疎化が進み、活気がほとんど感じられない。
- ・地域の活性化が必要だと思う
- ・とにかく福島には山が多く、山と人々の関係はきっても切れないと思うため。
- ・街のお祭りなどの楽器が前よりない気がするから
- ・対策をしてもどんどん問題が深刻化しているため
- ・過疎地域ももっと対策をしないと若い人が流出する一方だと思います。
- ・過疎が進んでいるところで職業世代が忙しそうだったから
- ・特に人口密度の低い地域では安全でなければ人が増えない、仕事がなければさらに人口が一部の都市に集中する。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-4 【暮らし分野】Q3-3でそう感じる理由

5/5 (※120名からコメント)

■「防災・安全に関する取組の強化」を選んだ回答者のコメント

- ・特に人口密度の低い地域では安全でなければ人が増えないから
- ・福島の大学に入ったが、避難場所や危険な場所をよく知らない
- ・震災から10年以上たった今、人的被害を抑えるために防災を徹底すべき
- ・豪雨災害、台風などに対する備えがあるのか不安
- ・自分の身を守ることが必要だと思う
- ・もし突然防災が起きた際、すぐに避難できるような防災グッズをそろえておらず、自分自身も周りも、防災意識が高いとはいえないと感じるため。
- ・最近の日本は、異常気象が多く経験した事の無い、災害にあうことが、多くなっているため、県が今まで以上にしっかりと補助金を出して、堤防を整備したり、土砂災害を防止するために、対策したりするべきです。そして、メガソーラーもしっかり規制した方がいいと思います。災害級の大雨が来た際、土砂災害になって崩れた場合のリスクを考えるべきです
- ・東日本大震災で防災と復興を強化してるように思えるが、実際はずるずると引きずっているだけ。
- ・福島県内での犯罪は減ってないように感じているため。
- ・最近福島県関連の犯罪がよく全国ニュースに挙がったり、熊の出没が多かったりしているが具体的な対策の周知が控えめなように感じるから。
- ・郡山駅でのバイトから帰るバスが20：00以降ないため、安積永盛駅から歩いて帰った時、街灯がほとんどなく、道が暗くてとても怖かった。遅い時間のバスの本数を増やすか、みちをあかるくしてほしい。犯罪が起きると思う。

■「脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた取り組み」を選んだ回答者のコメント

- ・福島県はゴミの量が全国でトップレベルに多いから
- ・ゴミ減量は、県全体で一律に分別ルールを定めた方が、余計なトラブルなくていいかなと思うから。
- ・大規模太陽光パネル開発による森林破壊の問題や、原発廃炉の問題、ごみ排出量の多い福島市の問題など、環境分野に福島県は諸課題が多いと考える。よって、もっと力を入れるべきであると考えている。
- ・ごみの排出量が多いと聞いたことがあるため
- ・ごみの分別が厳しい割には、分別しないところもある。

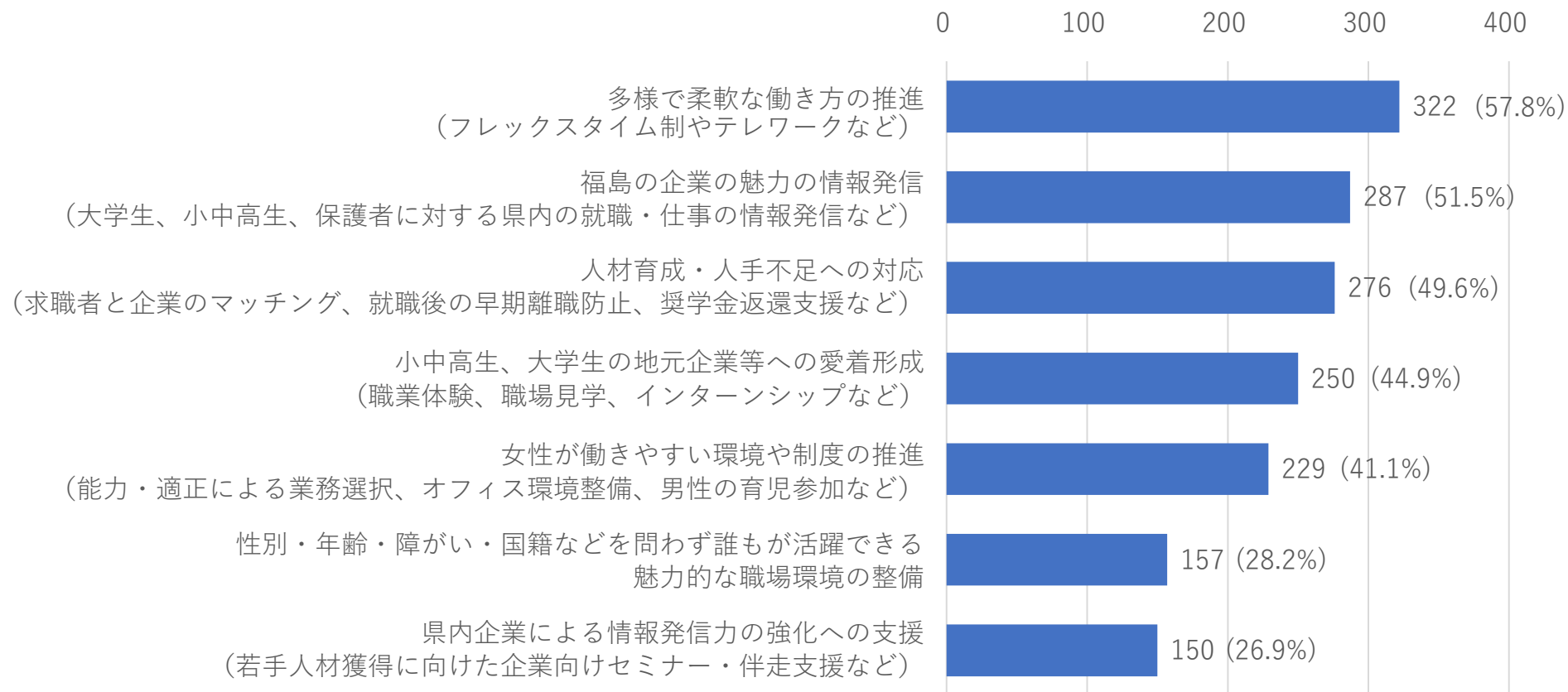
■「自然との共生の実現に向けた取り組み」を選んだ回答者のコメント

- ・自然と共に暮らせる環境を守ることも将来のために重要だと思います。
- ・福島県は面積もそうだが、地形の変化にも富んでいて、自然と触れ合う習慣があれば、かなり楽しめる。⇒娯楽不足の解消、環境保全への理解増進につながる
- ・太陽光発電についてたびたびニュースで問題視されているのをみたら
- ・吾妻山麓の景観破壊
- ・福島駅の鳥がうるさすぎたりフンを落とすため早急な対策を求める。
- ・道路脇に目立つ程の量のゴミが捨てられている
- ・原子力発電所が処理水を流した時に海外の一部から非難されたので、理解してもらおう活動がもっと必要なのかなと思ったから

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-5 【しごと分野(働き方や就職に関すること)】次の取組のうち、福島に足りないと思う取組はどれですか？

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)



2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-6 【しごと分野(働き方や就職に関すること)】 Q3-5でそう感じる理由

1/3 (※91名からコメント)

■「多様で柔軟な働き方の推進」、「女性が働きやすい環境や制度の推進」、「性別・年齢・障がい・国籍などを問わず誰もが活躍できる魅力的な職場環境の整備」を選んだ回答者のコメント

- ・福島県は働き方の幅が狭いと思う。能力給、インセンティブ導入、資格保持の補助、など挙げたらキリがない。
- ・福島の企業の魅力がわからない。またワークライフバランスの観点では、既に教科書などで昼寝スペースや、座らないワーキングスペース、ジムを導入している企業などを紹介しているのに福島県の企業はそこら辺の今の時代にあった企業づくりになっているのかなどの情報がわからない
- ・両親を見ていて柔軟な働き方をしている企業が少ないのではないかと思うのも理由です。
- ・まだまだ、女性が働きやすい職場、男性が育児休業を取りやすい職場にはなっていないと思うから
- ・初任給アップなどで遅れを感じる
- ・誰もが活躍する社会を目指す意識を持つことが大事だと思うから
- ・雇用の創出には、民間の投資が必要です。
- ・求人を見ると、5.5勤制度が多く土曜日とは限らないが、勤務日が自分の意思で安定させられないのは何だか古くさい企業だと感じる所が多い。
- ・女性が働きやすい環境として、生理休暇の導入を福島でしている企業等があるのかどうかわからない。
- ・女性が出産や育児をきっかけに仕事を辞めざるを得ないケースが、いまだに少なくない地域もありえる。
- ・能力や適性に応じた業務選択ができ、職場全体で子育てを支える意識が根付くことが、女性の継続就労とキャリア形成にとって重要だと感じる。
- ・女性に対しても自分の健康に気を使う時間も大切にしていきたいと考えた
- ・県内の若者が福島県に残る・県外の若者が福島県に転入するためには現代的な働き方や女性・男性ともに働きやすい環境が大事ではないか。
- ・都市圏の企業と比べると、古い価値観のようなものが蔓延しているイメージがあるため（親や親族の話聞いて）。
- ・女性の流失が続いているから
- ・近年はグローバル化(多様性)が求められている時代になって来ているのと、「働き方改革」が話題になっているため、長時間労働を無くして負担にならないような仕事が求められているから。
- ・子どもが幼い頃の急な体調不良で保育園からの呼び出しにも男性女性関係なくだれでもすぐ行っても大丈夫な制度があるとよいと思ったから。
- ・身近にテレワークやフレックスタイム制を利用している人が居ないから
- ・情報発信や広報は、まず土台や基盤ができてから。見せ方だけ変えようとするのは、役所の悪い癖かと。
- ・働く時間や機会などの融通がきけば、育児や介護とのワークライフバランスが取れるから

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-6 【しごと分野(働き方や就職に関すること)】 Q3-5でそう感じる理由

2/3 (※91名からコメント)

■「福島の企業の魅力の情報発信」、「県内企業による情報発信力の強化への支援」を選んだ回答者のコメント

- ・福島県に住んでいるのにあまり情報が入ってこない。または、情報を得る手段が限定的
- ・福島の魅力だけでなく、メリットはあるのかを伝えているのか。
- ・私は普通科高校出身ですが、県内企業の情報はほぼ見たことがないからです。
- ・若い世代（小中高の学生さん）は福島の魅力や何かしらのメリットがないと残ってくれないと思った
- ・魅力の発信というか、都会に出ないと就けない職種があるので、もっと会社・業種が増えるような取り組みが必要・良い条件の企業は関東圏に集中し、条件を下げても福島で働こうとは思いません。私はやりたいことができればどこでも良いので、条件の良い企業があれば福島で就職するかもしれないです。
- ・情報発信等は自分が受け取れないだけかもしれないが、今受け取れていないところに届けるように活動していけると思う。
- ・正直福島県には、どんな企業があつて、どんなことやってて、どんな環境かが、全然知れ渡っていないと身に染みて感じています。ここを解消しなければ、若者は、どんどん県外企業へ持ってかれてしまう。
- ・福島は東北の玄関口なのにも関わらず、大手企業の支社は仙台に集中しており福島には大手企業が少ない。
- ・会社規模が小さい企業が多く、地域密着型の企業では採用活動を大々的にできないので魅力が学生に伝わりにくい。
- ・専門学校や大学などの高校卒業後の進路で県外に行く人が多いのでそのまま県外に就職している人がいるのも事実だと思う
- ・若者が福島を見限っている。自分もそうだがこの県に魅力を感じないと意見を持った学生によく出会う。中高生時代は早く出たいという人も多くいた。
- ・就活においてやりたいことをやれる環境がなかった（業界・職種）
- ・福島県の企業に県職員さん方が伺いSNS発信をするなどして知っていただく機会を増やすべき。
- ・福島の企業紹介を聞いた時に知らない企業が多かったから
- ・地元の企業について自分で調べようとしないうりわからぬのでもっとテレビや新聞など多くの人が見るような媒体でどんどん配信していくべきだと思う。
- ・あまり地元の企業の強みのようなものが子どもに向けて発信されていないように感じるため。
- ・広告を目にする機会はあるけども行くと思わなかったから。
- ・福島県の特徴を理解していないと、福島県で就職する人が増えていかないから。
- ・魅力ややりたい事が見つからないなら県外にそれらを求めてしまう人が多い
- ・私自身福島にどんな企業の求人があるのか知らない
- ・理由ではなく訴えです。企業の魅力は、既にネットやパンフレットに記載されている企業さんが多いです。ただ、学校側若しくは子ども自ら、ハローワークに出向いたり、電話して企業紹介をして貰わないと、その実態や声でなければ分からない魅力があると思います。なので、年に一度、福島、郡山、いわき、会津、相馬辺りで誰でも行ける、聞ける企業大会でもしたら面白いのではないのでしょうか。企業の内容、魅力、給料、休暇、福利厚生を発表及び企業同士で討論共有(または比較)させて、切磋琢磨するチーム福島を是非見たいです。ブラック企業消滅にも繋がるかも知れません。また、企業の見学と紹介時に『企業も我々を見ている』という負の印象が強いです。気軽に行ける、聞けるのが我々次世代は嬉しいです。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-6 【しごと分野(働き方や就職に関すること)】 Q3-5でそう感じる理由

3/3 (※91名からコメント)

■「人材育成・人手不足への対応」の選択肢を選んだ回答者のコメント

- ・専門職に関して、そもそも求人を出していない所が多いため、採用試験を受けることすらできないため、県外を探すようになってしまう。
- ・福島県内で働くことの意義、メリット、他県との差別化が明白であり、自身にとってプラスになることがわかる必要がある
- ・高校生の進学(就職)先はだいたい県外で、都会であるから。自分の周囲でも県内に残っている人はわずかである。県内でできないこと、もしくは魅力がうまく発信できていないのではないかな。
- ・臨んだ職業に就くことができていない人が友人にもいる。もう少しマッチングがうまくいってればよかったのではないかなと思う。
- ・理由ではなく訴えです。少々思想が入りますが、私はもう小学生の頃からこう思っているんです。何故専門的な教育ではなく、全体上げをするのか。農家が減っているなら、小学生のうちから学ばせれば良いじゃないか、そう考える日もありました。人材教育とは、年単位を要する職業が多いです。事務作業なんて、タイピングが遅かったら戦力として数え難いです。人材教育、人手不足と嘆くなら、その不足を自然に補填できる様に、法律や厚労省、文科省のやり方を変えるべきです。一部は可能でも、本当の意味で全てにおいて、自己選択・決定ができる様な世界は、夢のまた夢だと考え、現実を見るべきと考えます。世紀間でやり方が同じなんて、時代が進んでいないのと同じではないでしょうか。付け足すのではなく、変化があっても良いと思います。

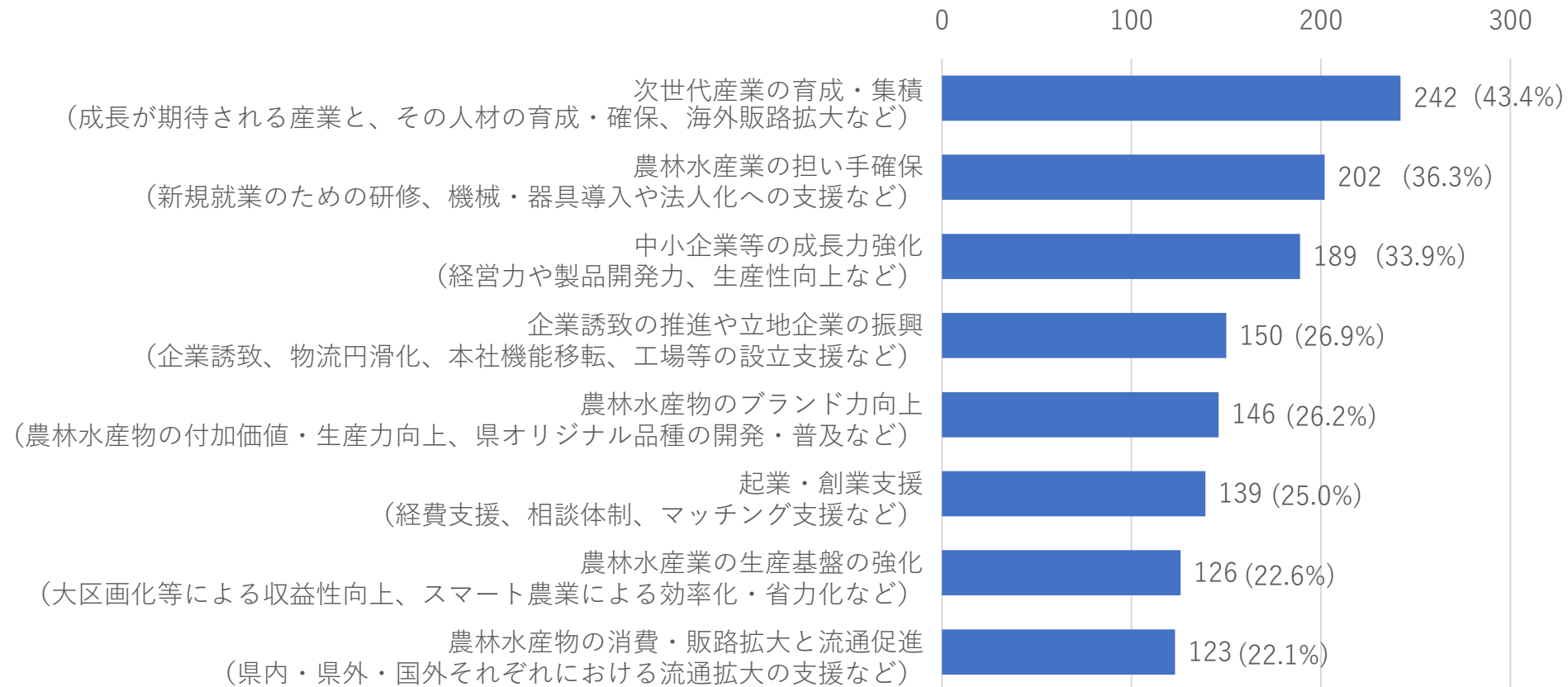
■「小中高生、大学生の地元企業等への愛着形成」の選択肢を選んだ回答者のコメント

- ・若い人たちが何かしらの理由で福島に対し愛着、郷土愛を抱くことが大切だと思います。大学進学で都心に行ったとしても結婚した後に福島に帰ってくるということも増え、また、それが情報社会化によって可能になってきているので金銭的な余裕がもっと生まれれば福島で生活したいという人も増えるのではないかなと思います
- ・「教育」と「仕事」との結びつきを強めたほうが良いと感じたため。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-7 【しごと分野(企業や起業者への支援、農林水産業に関すること)】次の取組のうち、福島に足りないと思う取組はどれですか？

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)



2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-8 【しごと分野(企業や起業者への支援、農林水産業に関すること)】 Q3-7でそう感じる理由

1/3 (※58名からコメント)

■ 全般的な意見

- ・中小企業、農林水産業には、戦略性がもっと必要だと思う。
(「利益第一」もそうだが、「長期的に何が達成したいのか+足元で何ができるのか」というビジョンと手段を考えている人がどれだけいるのか気になる。)
- ・今の若い世代は失敗を恐れ挑戦しません。なので、ある程度最初から信頼できるものを自身の手でさらによりよくすることができる、というアプローチのほうが効果的ではないかと思います。

■ 商工労働分野の選択肢(「次世代産業の育成・集積」、「中小企業等の成長力強化」、「企業誘致の推進や立地企業の振興」、「起業・創業支援」)を選んだ回答者のコメント

- ・(次世代産業などの) 若者が興味ありそうな仕事、続けやすそうな仕事が欲しい。 ・収益の向上、次世代につないでいくことが必要だと思う
- ・魅力的にも関わらず、インパクト面で負けている
- ・地元には海外展開から成長している企業(タンガロイなど)があるが、そうした企業にマッチした人材の育成がなされていないと感じているため。
- ・福島県には、外部から新しい企業が参入して来たりしているが、若い世代の人々はそういった企業とマッチしにくい状況にあると思う。
- ・中小企業の情報を知らない人が多いから ・中小企業の人々が厳しい現状に置かれているところが多いことを知ったから。
- ・タイパやコスパを重視する今の若者に対して、魅力発信などの内容がニーズに合っていない。
- ・担い手不足が懸念される事業を中心に、研修や認知の強化を図ることが、福島の将来に繋がると感じるから。
- ・都市部のほうが利便性も高く娯楽も多いので、企業や仕事に魅力がなければ特に若い人は県外に行ってしまうと思う。
福島県内に特別魅力を感じるような企業や力を入れていると感じるものが思いつかない。
- ・仕事に安定を求めていると起業するといったことに踏みきれないから ・起業をしようとしている若者に対して金銭的な面や精神的な面で支援をしたりするのが大切だと思う
- ・企業誘致に強くない ・大手企業が少ないから
- ・空いている土地が多く、もったいないなと感じることがあるから。 ・安定した就職先は大事
- ・福島県内に企業を誘致できていないから働く場所も限られており、少子高齢化が進む今の日本では高齢者の働く場所が少ないので収入が少なく支援も少ない。
若者は県外に行くため企業は雇用するのが大変になるが、大手企業も同じ状態なので学生は給料や福利厚生が良い大手企業に就職して、地域密着型の企業では人手不足があり、高齢者は収入が少ないという問題が発生しているように感じる。全ては行政が機能していないからだと思う。
- ・いわきの海岸沿い地域や東北道沿いには工場が多くありますが、会津方面地域や阿武隈高地の地域もインフラ整備を推進して工場の集積を図るべきだと思います。
また、福島ならではの工業(長野の精密機器工業のような)のブランディングが出来たらより成長し税収も上がるかなと感じます
- ・理由ではなくて訴えです。 1,娯楽施設やメジャーな飲食店を誘致すべきです。スーパーは既に充実しているはず。現代っ子は、必需品より娯楽施設を求めます。欲しいのはネットショッピングするので。 2,創業支援も良いですが、県で建物を作り、テナントを増やして入れ替わりで企業や個人に入って貰うのはどうでしょうか。初期投資は多大ですが、金回りが良くなるはず。施設建設には税金が使われますが、その実態として、その地に住む土木屋にお金が回り、家やアパートの建設が促される可能性があります。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-8 【しごと分野(企業や起業者への支援、農林水産業に関すること)】 Q3-7でそう感じる理由

2/3 (※58名からコメント)

■ 農林水産業の選択肢 (「農林水産業の担い手確保」、「農林水産物のブランド力向上」、「農林水産業の生産基盤の強化」、「農林水産物の消費・販路拡大と流通促進」) を選んだ回答者のコメント (1/2)

- ・福島県には農林水産業は頑張ってもらいたい。魅力のひとつだと思うから
- ・福島の農林水産物の魅力を維持し続けるうえで必要だと感じるため。
- ・福島県内の農作物は国内だけでなく、海外からも高く評価されている。米や果物、お酒といった名産品の生産基盤の強化、海外への販路拡大、そして担い手の確保にもっと積極的になるべきであると思う。
- ・第一次産業力向上に立ち返る必要がある。
- ・食料自給率を上げることが緊急事態に備えるために大切
- ・農林水産業の支援は急務だと思うため。
- ・特に農家への支援、給付はすべきだと思う。年々人口が減ってきているから。

- ・農林水産業の担い手不足が深刻なため。
- ・作物を育てる人が不足しているとテレビで聞いたから。
- ・農業の後継者不足。
- ・農業に従事する人が減っていることは大きな問題なのでどうにか解決する必要があるのではと思います。
- ・第一次産業を担う人材の育成が積極的になされているイメージもないため
- ・農林水産業の担い手が増えていかないと、存続していくことが困難であるため。
- ・福島は果物が美味しいと思うが、その他の農林水産業は人手不足などないのかと心配だから。
- ・農業の担い手不足は、これからの日本にとって1番大事な点なので、今回起きた米騒動で米農家は、給料は上がっていないということがわかったと思うので、仲介業者に中抜きされないように守る体制をまずやることが大事だと思う。どう考えても、若者は給料が安定しているところに行く傾向があるためそこを何とかしない限り、どうしようもないと思う。そして、もし若者が農業を始めたいと思って初期投資にお金がないと思うので、そこのところも支援していくべき。

- ・福島県で生活していてあまりブランドの話題に触れないから
- ・地元企業や農産物の魅力を高めることは、地域の活性化や若者の地元定着につながると思ったからです。
- ・企業誘致やブランド品の生産によって、福島県全体の産業を成長に導くと思うから。
- ・福島県に来てからこんなにおいしい食べ物、知られている食べ物に出会った。しかし、ブランド力の小ささから県外に広まっていない印象を強く感じた。
- ・福島県産の農産物は品質が高いものが多いのに、ブランド力や知名度が十分とは言えないものもある。もっと県として統一感あるプロモーションを行ったり、オリジナル品種や加工品の開発・普及を支援することで、県外・国外への販路拡大も進むと考える。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-8 【しごと分野(企業や起業者への支援、農林水産業に関すること)】 Q3-7でそう感じる理由

3/3 (※58名からコメント)

■ 農林水産業の選択肢 (「農林水産業の担い手確保」、「農林水産物のブランド力向上」、「農林水産業の生産基盤の強化」、「農林水産物の消費・販路拡大と流通促進」) を選んだ回答者のコメント (2/2)

- ・農業人口の高齢化が進む中、スマート農業の導入や大規模化などによる効率化は避けて通れない課題だ。設備導入やICT活用に対する支援を強化し、若い世代が参入しやすい“儲かる農業”の仕組みをつくるのが、持続可能な地域農業のカギだと思う。
- ・明らかな人材不足の中、農業を自動化せず衰退していついっなくなるのがもう終わってる。国が衛星誘導の自動トラクターや農業ドローンなどを現物支給して一次産業でも将来安泰だと若者に示す必要がある。タイパやコスパを重視する今の若者に対して、魅力発信などの内容がニーズに合っていない。
- ・農林水産業においても東北地方で協力すればICT農業の普及率は増えるし、定年後は農家へ転職する人が多いので、農家の負担を減らすことができる。余裕が出てくれば1次産業の誘致もできるので農林水産業が強い、東北地方を中心に作業の効率化や支援をするべき

- ・農林水産業が重要なのは理解しているが、学んだり触れる機会が少ないと思う
- ・郡山市出身ですが、給食で鯉の料理が出たとき、残念ながら生臭さで食べれない人が多かったです。多くの人に鯉は美味しくないという印象が強く残っていました。県や市のブランド品をせっかく給食に出すのであればもっと美味しいものを提供して頂ければ、若い人の口コミは強いのもっと普及していくと思います。
- ・理由ではなくて訴えです。地産地消を軸にするのはダメなんですか。県内の農林水産物を県が買取、適正価格でスーパーを経由し市民へ売るのはどうなのでしょう。マーケティングを拡張するのではなく、まず県内で県が自己解決するべきと考えます。

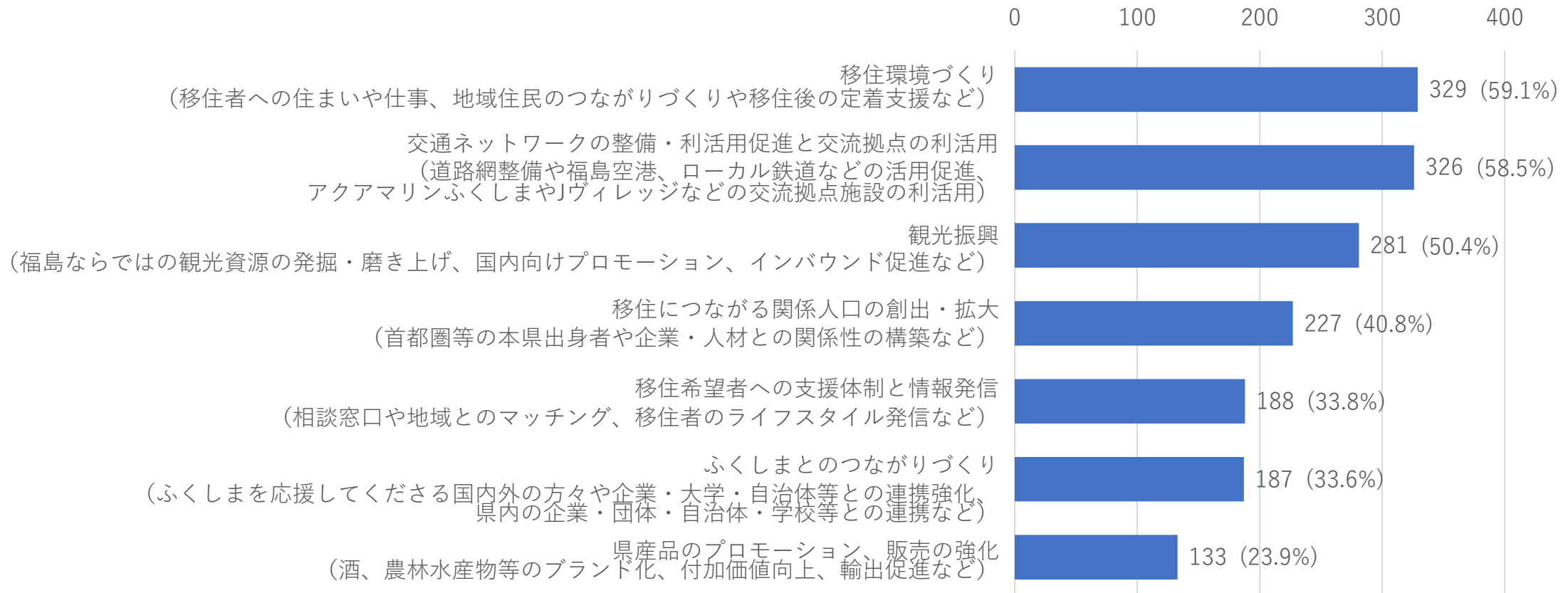
- ・福島は食べ物に対する偏見が生まれてしまった街であるが、そこを力でひっくり返せるポテンシャルを持っていると思うから。
- ・原発事故による風評被害が減ってきているので、いろんな人に福島県の農林水産物を知って欲しいから。
- ・国外に関しては、いまだに東日本大震災の風評被害が根強く福島の農林水産物を流通させることが難しいとニュースを見て感じた。
- ・原発事故の風評被害は改善されつつあるが、いまだに誤った情報に基づく批判がみられるため。
- ・東日本大震災後の農林水産物の売り上げの減少があるから
- ・何と言っても風評被害からの脱却。
- ・いまだに風評被害が残っている人がいるため

- ・米高い。
- ・農家の人困っている
- ・収入増が実感できていない

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-9 【人の流れ分野】次の取組のうち、福島に足りないと思う取組はどれですか？

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)



2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-10 【人の流れ分野】Q3-9でそう感じる理由

1/6 (※71名からコメント)

■ 移住・関係人口関連の選択肢（「移住環境づくり」、「移住につながる関係人口の創出・拡大」、「移住希望者への支援体制と情報発信」、「ふくしまとのつながりづくり」）を選んだ回答者のコメント (1/2)

- ・福島県内に移住したいと考える人も少なくない。そういった方々の円滑な移住を実現するために、移住定住に関連する各施策に更に力を入れるべきであると考えている。
- ・定住人口や関係人口を増やしていくことが、福島県の活性化につながると考えるから。
- ・就労先がないと定住は見込めないと感じる
- ・移住した後の仕事の安定が大事なのかな、とは思いますが。工場勤務とかだと最低賃金レベルで逃げられるので。とはいえ、すべての移住希望者が何かしらの免許を持つ人ではないので、少しでも前に住んでいたところより、生活が豊かに感じられるように定期的なフォローアップは大切そう。
- ・福島に移住してくれるための工夫をもっとするべきだと思う。
- ・移住者が安心して暮らせる環境が整うことで、福島に住みたいと思う人が増えると感じたからです。
- ・呼び込んだ人を前の場所より不便と感じさせないように
- ・県民である自分にも、福島県に移住したいと思える魅力が分からない
- ・今の福島に住みたいと思う人が多いとは思えないから
- ・今の福島に住むのは暮らしやすさが全く無いため、自然を目的としている人以外は移住したいと思わないと思った。
- ・実際、わざわざ福島に住みたいという県外の方は少ないと思います。もし推進したいなら、新規移住する方に限って、『20年間住み続けたら、それまで支払った所得税の半分以上を返還する。』とか面白い施策はどうでしょうか。あくまで新規移住で、毎年納税削減したいという悪い人は使い難いやり方です。
- ・とくに移住については口コミが流れを形成することが多いと感じています。今は移住後の生活を快適にすることを考えるべきだと思います。
- ・移住のPRが少ないと感じるから。
- ・県外からの移住者について、県が、県外からの移住を求める動機は、県の税収を維持し、県の経済を維持し、既存の県民の生活環境を守るためであると理解しています。しかしながら、移住者にとって、東京などの都市部から、福島県へ移住するには経済的なメリットはありません。お金では測れない魅力を福島に感じてもらわなければ、移住しようとは思わないでしょう。つまり、都会の働き盛りの世代が経済的な基盤を捨てて、福島に移住するのは、それ相応な理由がなければあり得ません。失業や転職、子どもの教育、健康上の理由などのために福島への移住を考える人に対して、福島は何を提供できるのでしょうか。福島は、雇用、教育、医療など、生活の基盤それぞれに問題を抱えていて、都会で質の高いサービスを楽しんでいた人々を魅きつけるのは難しいのではないかと感じてしまいます。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-9 【人の流れ分野】 Q3-8でそう感じる理由

2 / 6 (※71名からコメント)

■ 移住・関係人口関連の選択肢（「移住環境づくり」、「移住につながる関係人口の創出・拡大」、「移住希望者への支援体制と情報発信」、「ふくしまとのつながりづくり」）を選んだ回答者のコメント (2 / 2)

- ・県内の移住者について、過疎地域の県民を、人口集中地域に移住を促すことはしないのでしょうか？ 県外の方へのアピールとはまた違った性質のものになるでしょう。
- ・関係人口を増やすことで様々な視点を得ることができる
- ・県外の機関と繋がることで、流出する可能性が出ては来るが、福島県に問題を感じて、改善に来てくれる人が現れるかもしれないので、積極的に繋がると思う。
- ・有名な大学とタッグを組んだほうが知名度が上がりやすいと思うから。
- ・福島に来る人のマッチングなどを強化した方が良いと思う
- ・浜通りのほうではある程度増加傾向にあると思うが会津方面などではまだ関係人口自体が増えていないのではないかと感じる
- ・国土交通省の2022年三大都市圏以外で人口当たりの関係人口が多い30市町村を対象に実施した調査では75%の市町村が「移住増加」を関係人口増加となっていることがわかっているので様々なアプローチで関係人口を増やすことで福島県に興味を持ち移住してくる人が増えるのではないかと考えるから。
- ・「いきなり移住」ではなく、まずは関係人口として福島と継続的に関わるきっかけがあることが大事だと思う。県外出身者や企業とのネットワークを広げ、“関わり続けたいくなる福島”をつくることで、将来的な移住や定住にもつながると考える。福島県内だけでなく、県外や国外の企業・大学・団体との連携を深めることで、新たな雇用や交流の機会が生まれ、地域に新しい人の流れがでくさると思う。特に、若者が県外に出た後もつながり続けられる仕組みがあると、Uターンや仕事での再接点につながりやすくなる。
- ・移住の取り組みを行っていたことをそもそも知らなかった。
- ・歓迎してないと思う。
- ・魅力を感じていたとしても移住しよう！となる人が多いとは言えないから
- ・移住者支援に加えて、空き家の無償提供など他県からの大学入学生に対する支援があるとよい。流入するためにはそのメリットが明確である必要がある。
- ・福島は移住をメリットに動いてないと感じるから
- ・移住促進を図るなら、直接的に。
- ・人が減っているため、移住者の支援や地域のつながりが大事になると思う
- ・正直、東北でも仙台市が主な観光地で、福島に来るといふ旅行者は少ないと思います。観光 = 移住に繋がると言われると、多くはなく、実情は環境だと考えます。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-9 【人の流れ分野】Q3-8でそう感じる理由

3 / 6 (※71名からコメント)

■ 交通ネットワークの整備に関する選択肢（「交通ネットワークの整備・利活用促進と交流拠点の利活用」）を選んだ回答者のコメント (1 / 2)

- ・車がないと生活ができない。
- ・福島県は面積が広いので、車がない人にとっては観光の脚がなく行ける範囲が狭まってしまうと感じている。
- ・福島は車社会であり、県民の自動車使用率も高いと思う。そこに観光客の車が来てしまうと、一般道路が混雑するというイメージがある。
- ・田舎だと車がないとどこにもアクセスすることができない、なのに公共交通機関の運行数は減るばかりで人を流そうともしない。
- ・広いから仕方ないが、バスがやや不便で！値段が高い。
- ・バスの便をもっと増やして欲しいから。
- ・バスや電車の融通が悪いと感じる時が自分も周りの人にもあるから
- ・公共交通手段がすくない。
- ・福島県に住んでいて不便だと感じることは、公共交通機関が整備されていない、また整備されていても料金が高くて利用できないといった点。移住者が少なかったり、流出してしまう人口が多いことの要因の一つが、料金にあると思う。

- ・県内での交通が都市部に比べて不便
- ・交通の便が悪かったらどんなに良いまちでも住めない。
- ・交通が1番のネックなのに対策が全くされてない。
- ・東西方向の交通が不便

- ・交通渋滞対策が弱いと思う
- ・福島県(特に郡山市)では渋滞が発生しやすいので、かなり不便を感じる人が多いと考えたから

- ・利便性をアピールしてあげることが必要だと思うから
- ・交通の利便性が整うことで、福島に住みたいと思う人が増えると感じたからです。
- ・都市とのアクセスの良さなどは移住の決め手になることがあるので交通機関の整備は重要だと考えるから。
- ・交通ネットワークは、関係人口創出などの基礎になるから。
- ・インフラ整備などを通し、福島全体で人が流れるようにした方が良かったため。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-9 【人の流れ分野】 Q3-8でそう感じる理由

4 / 6 (※71名からコメント)

■ 交通ネットワークの整備に関する選択肢（「交通ネットワークの整備・利活用促進と交流拠点の利活用」）を選んだ回答者のコメント (2 / 2)

- ・新幹線が通っていないところがある。
- ・新幹線が通っている郡山や福島以外は他県から移動するのに時間がかかるから。もう電車を早くしたり、空港を利便性の高い場所に作ったりして他県から移動して来やすくなるようにした方がいいと思う。
- ・私は県北の人間なのでJRが郡山福島駅間、仙台福島駅間のW切符を廃止したことに対して経済面や人の流れの面で厳しい状況になるのが分かるのに行政が何も手を打たなかったのが理解できない。
- ・交通ネットワークは特に足りていないと思う。新幹線は関東と東北を行き来するのに便利だが高い。バスは値上げされてるし、電車の本数は少ない。
- ・空港の利便性が悪いと思う
- ・交通は、ここに住むことや旅行で訪れることを妨げる最大の要因だと感じています。
- ・特に冬の豪雪による交通障害は避けられない天災ですが、2025年冬の最強寒波では、その影響の深刻さがはっきりと表れました。周辺の市町村では除雪が迅速に行われていたのに対し、会津若松市の除雪の進み具合は非常に悪く、数日間にわたって外出がほぼ不可能な状況が続きました。高齢で足の不自由な方々は一体どうやって過ごしていたのか、想像するだけでも恐ろしいです。路面の凹みで車がスタックしやすく、救急車の通行すら困難でした。雪が好きで移住してきた人にとっても、まさに災害のような体験で、多くの人が「もうここには住みたくない」と感じたようです。これは防災対策の一環として、ぜひ真剣に取り組んでいただきたい課題です。同時に、厳しい状況の中で作業して下さる除雪関係者の皆様には心から敬意を表します。より現実的で効率的な除雪計画の策定をお願いします。
また、通常時の交通についても課題があります。郡山とのアクセスは非常に微妙なバランスです。郡山に行くのにかかる時間が、新幹線で東京に行く時間よりも長く感じられます。バスは道路の混雑により遅れやすく、乗り継ぎに支障をきたすこともあります。
さらに深刻なのが空港との連携です。福島空港の無料駐車サービスは素晴らしいですが、車を持たない人や多様な移動手段を望む人にとっては不便です。周辺には仙台空港、新潟空港、福島空港がありますが、会津からはどこも中途半端に遠く、飛行機の所要時間が1～2時間なのに対して、空港までの移動に2～3時間もかかるのが現状です。道路事情や高速バスの有無によって大きく影響を受けるので、例えば新潟空港の駐車場割引や、福島空港へのマイカー利用者への特典など、具体的な支援策を検討できないでしょうか？ 地方空港に財政的な余裕がない場合は、成田空港や羽田空港と連携して、何らかの特典を提供することも考えられるかもしれません。
また、バスのコストが高い場合、タクシーやUberのような相乗りサービスを活用するのも一つの手だと思います。今は1～2人で空港に向かうとタクシー代が高くなってしまいますが、同じ時間帯に空港に向かう人同士をマッチングしてくれるプラットフォームがあれば、新幹線と同程度のコストで空港にアクセスできるようになるかもしれません。これはぜひ検討の価値があると思います。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-9 【人の流れ分野】 Q3-8でそう感じる理由 5/6 (※71名からコメント)

■ 観光振興に関する選択肢（「観光振興」、「県産品のプロモーション」、「販売の強化」）を選んだ回答者のコメント (1/2)

- ・「福島と言えば」が必要。
- ・全ては福島の強みを知る事と、新たな産業の創出につながる人の流れを作って欲しい。
- ・観光客が増加することで地域の収入が増え、活性化につながると考えるため
- ・福島の良いところや47都道府県の中でも福島のここが1番魅力的だと分かるPRをしないと人は集まらない。
東日本大震災というマイナスのイメージが強い福島なのにプラスのイメージが伝わる魅力が無いのが問題。
- ・若者を中心に福島県の魅力がまだまだ伝わっていないように感じるため
- ・大学生になって、県外から来た友達に福島のもので紹介できるものが少なく悲しかったから。
- ・もっとSNSを活用すれば、もっと福島県の魅力を発信できると思う
- ・観光のPRが少ないと感じるから。
- ・都心に住む人のイメージでは福島の有名な観光地といえばハワイアンズ 猪苗代湖 温泉地域というぐらいの解像度の人が多いと思います。
そのためインフラ整備(特に道路インフラ)のあと観光情報の発信強化を行い様々な場所での観光振興を図るべきだと思います。
そうすればもっと福島県の魅力に気づき移住してみたいという人も増えると思います。
- ・美味しい果物があるのに活用しきれていない
- ・福島の高品質な農作物は付加価値をつけて海外でも売れるのではないかと考えているため。
- ・地域資源増やす
- ・観光資源はたくさんあるからいいと思った。
- ・福島県には魅力あるものがたくさんあるが、どこまでいっても「浜・中・会津」に分かれていて、それを束ねて強力な武器にできていないと感じる。
(それぞれの個性は非常に重要だが、県として統合してプロモーションできていない。)
- ・交通の便、交通の駅などにある店が不足してると思う。観光では会津は有名だが、いわきや中通りの宣伝は不足してると思う。
- ・利用者が多い時間に公共交通機関を増加できるようにJRと共同した取り組みを行ったり、日本一のお酒があるため、もっとアピールをしたりするとよいのではと考えることが多いから。
- ・もっと「福島独自の」何かを取り上げていけばいいのと思う。特に日本酒や大学教育について。福島大学は他の地域ではできない、地域創生や復興支援のあり方、原発事故後の地域についてや、放射能に関わる学問に取り組める環境があり、日本で唯一だと思う。もっとそれを押し出せるようにしていけばいいのと思う。

2 どんな取組が足りていないと感じているか

Q3-9 【人の流れ分野】 Q3-8でそう感じる理由

6 / 6 (※71名からコメント)

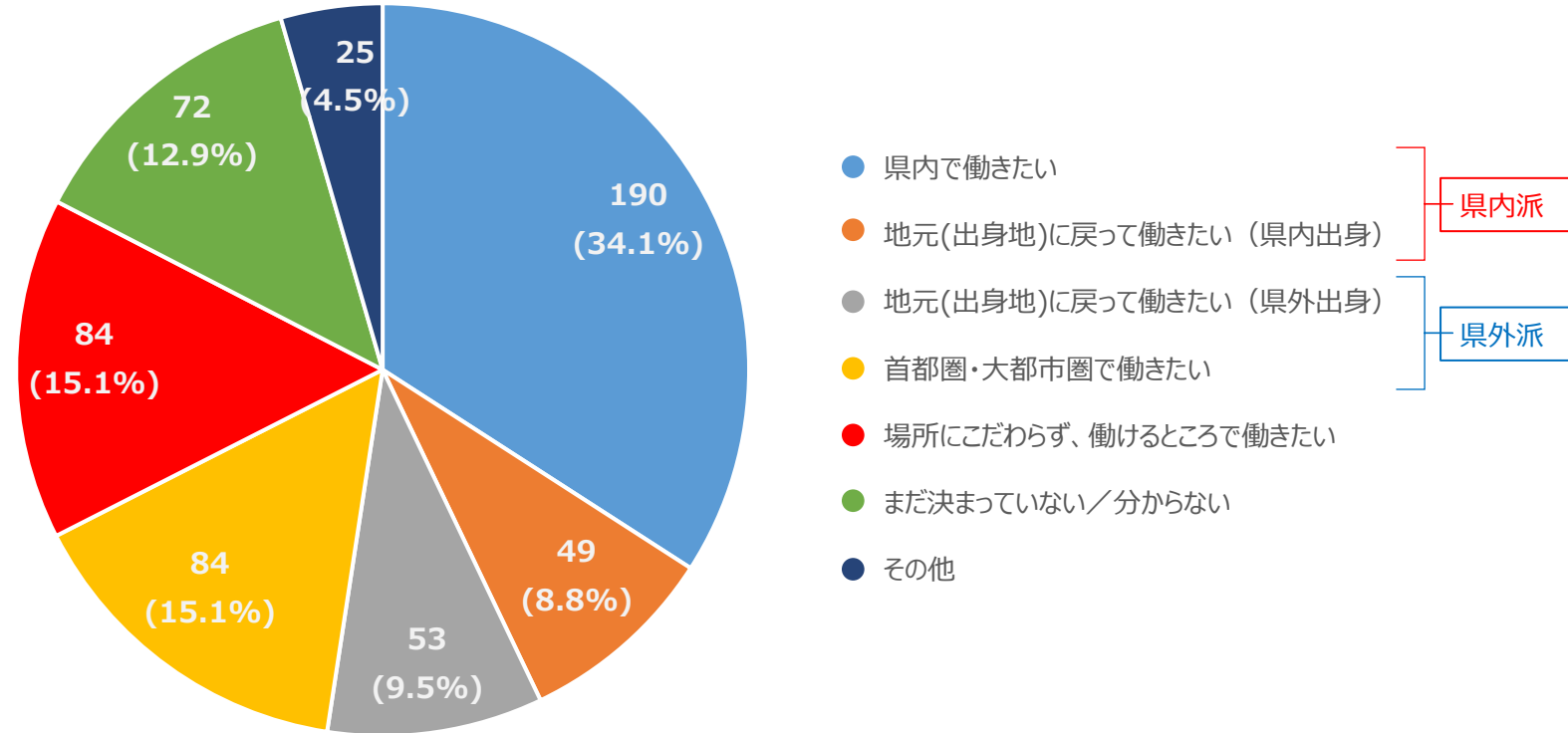
■ 観光振興に関する選択肢（「観光振興」、「県産品のプロモーション」、「販売の強化」）を選んだ回答者のコメント (2 / 2)

- ・県内の移住や定職に繋げるには、観光復興の取り組みによって福島をさらに知ってもらう必要があると思うから。
- ・観光で訪れてもらい、まずもう一度行きたいな〜って貰えるような場所をどんどん作って行くべきではないか？
会津、三春などは、知名度が高く観光するのにあってこいだが、他県の方に知られてない土地をもっと観光地すべく動くべき、食や季節ごとの花など
- ・福島駅前の開発は観光資源になりうるチャンスだと思うが、現在の構想はこれからを担う若者の需要に適っているのかが疑問。
- ・主に居住しているいわきでの所感だが、福島の中でもいわきは観光客の数が他の市と比べて少ないように感じている。
理由は新幹線が通っていないことや会津などに比べ、文化遺産の少なさがあると思った。
- ・日本のサブカルチャー（漫画、ゲーム、アニメ）やK-popなど、若者が既に持つ熱量のある「モノ」を利用しない手はないと思うのだが…
サブカルは経済的余裕のある40代～50代にもウケがいい。コンスタントにイベントを実施できれば、「福島はいつ何時でも何かやってる」となる。ハワイアンズは良い例だと思う。
- ・買い物楽しくできる場所が必要（有名ブランド、企業など）
- ・若者が好きそうな娯楽施設を増やすべき。
- ・あんまり福島に観光のイメージがない
- ・県内に魅力的な観光地が少ない
- ・とにかく観光資源が少なすぎる。他の都道府県と比較して福島県は魅力が少ないとよく耳にする。
さらに周りでは遊ぶ場所がないなど、リピートして行ける観光地が少ない(一度行ったら満足してしまう)
- ・福島県は原発事故の負のイメージを拭えていないと感じる

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-1 卒業後の進路・就職

(回答者数=557名)



3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-2 Q4-1の選択理由

2/6 (※170名からコメント)

■ 県内派（「県内で働きたい」、「(県内出身者で)「地元(出身地)に戻って働きたい」）を選んだ回答者のコメント（2/2）

- ・よく知った地元で働きたい
- ・地元を支えたい
- ・地元のことを一番知っているから
- ・地元である福島県にあるのが安心だから
- ・地元近く、家族や友人とのつながりを大切にしながら働けると思ったからです。
- ・住み慣れた環境で安心。
- ・住み慣れてるから
- ・住み慣れた街で働きたい
- ・住み慣れた福島県で働きたいと思う。
- ・住み慣れた場所で働きたい。県外には観光目的で訪れたい。
- ・どこで働こうかは詳しくは決めていないが、なるべくなら福島に残りたいと考えている
- ・実家から出たくないから
- ・一人暮らしする費用が不安なので実家から通勤したいから。
- ・実家に近い方が家族を気にかけてやすいから
- ・地元に残って就職をしたい。家族と一生過ごしたい。
- ・実家の近くで働いたほうが安心する
- ・親になにかあった時にすぐに駆けつけられるから
- ・家族と遠く離れるのが不安
- ・実家や、実家の近くで暮らすことで、お互いに万が一のことがあった際に、助け合えるから
- ・兄弟がいないため、将来的に親の介護が必要になった場合自分がやるしかなく、その可能性を考慮するのであれば初めから県外に出て行かずに県内で働き、すぐに駆けつけられる距離にいた方が良く考えるため。
- ・研修医に払われる給料が高いから
- ・大学の奨学金を借りている
- ・奨学金の関係でいわきに帰る。
- ・入試の規定で、県内で働く。また、その後も将来は福島県で働きたい。
- ・都会怖いので…
- ・県外で働きたいと思わないから。
- ・福島から出る予定はない。他の県でやっていける気がしない。
- ・県外に出たいと思わないから。
- ・県外への引っ越しが面倒そう
- ・県外がいいが余計お金がかかる

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-2 Q4-1の選択理由

3/6 (※170名からコメント)

■「県外派（「首都圏・大都市圏で働きたい）」を選んだ回答者のコメント（1/2）

- ・自分自身がやりたいことが首都圏にあるため
 - ・働きたい場所が決まっているため
 - ・自分が働きたいと思う企業は首都圏にしかないから。
 - ・働きたい企業が都会にあった。
 - ・自分の興味分野の企業が関東圏に集中している。まずは、そこで力をつけ、将来的には地元 福島に戻りたいと考えている。
 - ・やりたいこと仕事の多くが首都圏であるから
 - ・働きたい職種の企業が東京にあるから。
 - ・目指している職種は経験を積むものだから、30代になったら住み慣れた福島に戻ってくる予定です。
 - ・最終的には福島に帰りたいが、それまで自分を鍛える環境は福島だけにとどまらないから。
 - ・大学院に進学するため、研究内容を実現できるところで勉強したいし、最終的に働くのだと思うから。
 - ・やりたいこと優先、いずれ福島県に戻りたい。
 - ・やりたいことをするのに土地に縛られる必要性はないと思うから
 - ・大切なことはやりたいことがやれるかであるため。
 - ・全国に実際に足を運んでみることで、自分のやりたいことを具体化できると考えたため。
 - ・福島で働けるなら働きたいが、将来はコンピュータ関連に就く予定なので、給料や、自分のスキルアップを考えると難しく感じる
-
- ・仕事だけでなく趣味や旅行など私生活の充実させられる環境であるから。
 - ・福島県の企業はITに関しては魅力が少ない
 - ・娯楽やチェーン店が多く、楽しそう
 - ・裁量だったり規模が福島と比べると違うので1度スケールの大きい物を扱ってみたかったから
 - ・できることの幅が広いと感じるから。多くの優秀な人が集まると思うから。
 - ・最新の技術に触れやすく、人と関わりやすい。また、遠出の利便性も高く、動きやすさが段違いだから。
 - ・福島には無い(首都圏・都会にしか無い)お洒落で楽しいお店や施設に気軽に行けるような地域で暮らしたいから
 - ・どこで働くよりも自分の目標とすることが達成出来る環境で働きたいから
 - ・様々な場所を自らの目で見てみたい為
 - ・若いうちは全国の色々な場所を視て刺激を受けたいと考えているからです。

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-2 Q4-1の選択理由

5/6 (※170名からコメント)

■「県外で働きたい（（県外出身者で）「地元（出身地）に戻って働きたい）」を選んだ回答者のコメント

- ・地元の活性化につながる活動をして、地元をよりよくしたいと考えるため。
- ・地元に戻元したいという気持ちが強いから
- ・地元が落ち着くから
- ・地元が気候や環境的に過ごしやすいのと家族との時間を大切にしたいため。
- ・災害も少なく、都市部と比べて物価も低く、伸び盛りの街で、安定しているから。
- ・福島よりも地元の方が住みやすい。福島は広いのに道路が少ないからどこ行くにも混むし時間かかる。
- ・福島は交通が不便だから。
- ・福島県より地元のほうが交通網が良いから。
- ・田舎すぎて暮らしづらい。郡山くらい発展してたら考えるかもしれないが、普通に大学生にとって遊ぶ場所として、カラオケくらいしか思いつかない。
- ・まだ来て3か月ほどですが、東京出身ということもあってギャップが大きいから
- ・家族がいるから
- ・地元で家族や親戚や世話になった先生、友達がいるから
- ・実家の手伝いがあるから。
- ・仙台は住みやすいから

■「その他」を選んだ回答者のコメント

- ・県外で医師としての経験を積んでから県内に戻りたい
- ・県内か、縁のある沖縄で働きたい。福島や沖縄が自分のことを成長させてくれた場所だから
- ・福島県にとどまりたかったが、やりたいことが県外だったため県外への就職を決めた。
- ・地元に対して愛着があるため県内で働きたいと考えているが、宮城のような都会過ぎない程よい都会に過ごしやすさ生きやすさを求めていることもある。
- ・福島県に近い地域であれば、勤務地へのこだわりは特にないため(勤務地より仕事内容を重視)
- ・働きたいところで働く。給料よく休み休み
- ・卒業時の社会のニーズに応じて働く場所や大学院への進学を決めたい
- ・公務員として働くなら県内、不動産営業として働くなら県外で働きたいと考えているから
- ・東北内でほどよく栄えてるところ
- ・県外もしくは海外企業(オーストラリアやアメリカなど)
- ・海外
- ・県外
- ・仙台
- ・栃木県
- ・現在住んでいる県(福島県外)で働きたい。
- ・大学院への進学
- ・別の学科に入る
- ・ヨーロッパへ留学する予定です。
- ・既に就職している(社会人学生)
- ・学生ではない

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-2 Q4-1の選択理由

6/6 (※170名からコメント)

■「未定・分からない」を選んだ回答者のコメント

- ・自分の進路について中々考えられないから。
- ・自分の強みや特徴をまだ理解していないから。
- ・福島でやりたい事が見つからないため。
- ・なるべく出身地で働きたいけど自分が働きたい就職先が無さそうだから
- ・地元か首都圏で働くのが就職条件としていいから。
- ・地元に行きたいが交通機関が不便なので迷っている。
- ・娯楽が多く便利な所に住みたいと思うが、県外に行くことに不安もあるから
- ・海外からの人が少なく落ち着いていて地方としての良さは福島で感じるが、どうしても求人、インフラやお店の少なさ等の生活に不自由な面は気になる。
- ・東京で育ったためどうしても比較してしまい、福島を住みにくく感じる。また、将来子育てをするなら多彩な教育方針の中から選択できる環境がいいと思った。
でも、大学に育ててもらった恩や6年間の人とのつながりもできたため、離れるのも申し訳ない気持ちがある。
- ・県外での就職を希望しています。主に北関東あたりが理想です
- ・どこで働けるかはその時まで誰も分からない

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-3 (県内で働きたいと答えた場合)福島で働くにあたっての懸念や不安

1/2 (※81名からコメント)

- ・就きたい職種が無いか、ほとんど採用の枠がない
- ・自分の興味関心に近い企業、業種があるか
- ・求人があるか不安
- ・就職先が見つかるか分からない点
- ・良い就職先があるかどうか
- ・給与や福利厚生に満足できる企業があるか
- ・全国と比較して低い最低賃金
- ・仕事に見合う給料がもらえるか
- ・給料と、採用人数の少なさ
- ・福祉従業員の賃金停滞
- ・東京の企業に比べて給料が低いこと
- ・安定しているか
- ・スキルやキャリアの取得が難しそう
- ・働くうちでのスキルアップが見込めないのではないかと感じている。
- ・女性に対するアンコンシャスバイアスによって昇進・採用に影響がありそう
- ・職場の雰囲気
- ・パワハラなどのハラスメント
- ・希望する職種の求人が少ないのではないかと不安があります。
- ・よく耳にする企業の工場などが福島県内にほとんどない。働く場所の創出を求める。
- ・自分に合った、魅力的な会社に出会えるか。
- ・思っているより福島の会社を知らない。自分の働きたい分野の職種が少なめ
- ・自身が勉強してきたことを発揮できる場所が少ない。また、就きたいと思う職場の少なさも懸念している。
- ・あまり会社がない、大企業がないから給与が低そう
- ・自分の希望する業種、職種がない。
- ・仕事量に見合った給料が出るのか心配
- ・給料や待遇面でも少し心配です。
- ・給料が低い
- ・給与、給料
- ・研修制度
- ・昔ながらの固定観念に囚われた人がいることで働きづらくなること
- ・ベテランが多くて若者が少ないので、同世代と会話ができるか不安。ジェネレーションギャップを感じると思う。
- ・県が広すぎて、医局の人事異動によっては定住できなさそうだし、夫婦と一緒に暮らせるのかなという不安はあります。
- ・転勤がある場合、県の面積が大きいために転勤範囲が非常に広く、特に横の移動が難しいため、地元からかなり離れてしまう可能性があるということ。地元簡単に帰れないということ。
- ・教員志望であるが、県内での異動について、同じ福島県内でも範囲が広いことから引っ越し等の準備が大変そうだと感じた。
- ・過疎地域に転勤となった時の住む場所
- ・教師として働こうと考えているが福島は、面積が広すぎていわきから会津に転勤など移動が遠すぎる。転勤も2.3年に移動だと住む家の準備が大変そう。

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-3 (県内で働きたいと答えた場合)福島で働くにあたっての懸念や不安

2/2 (※81名からコメント)

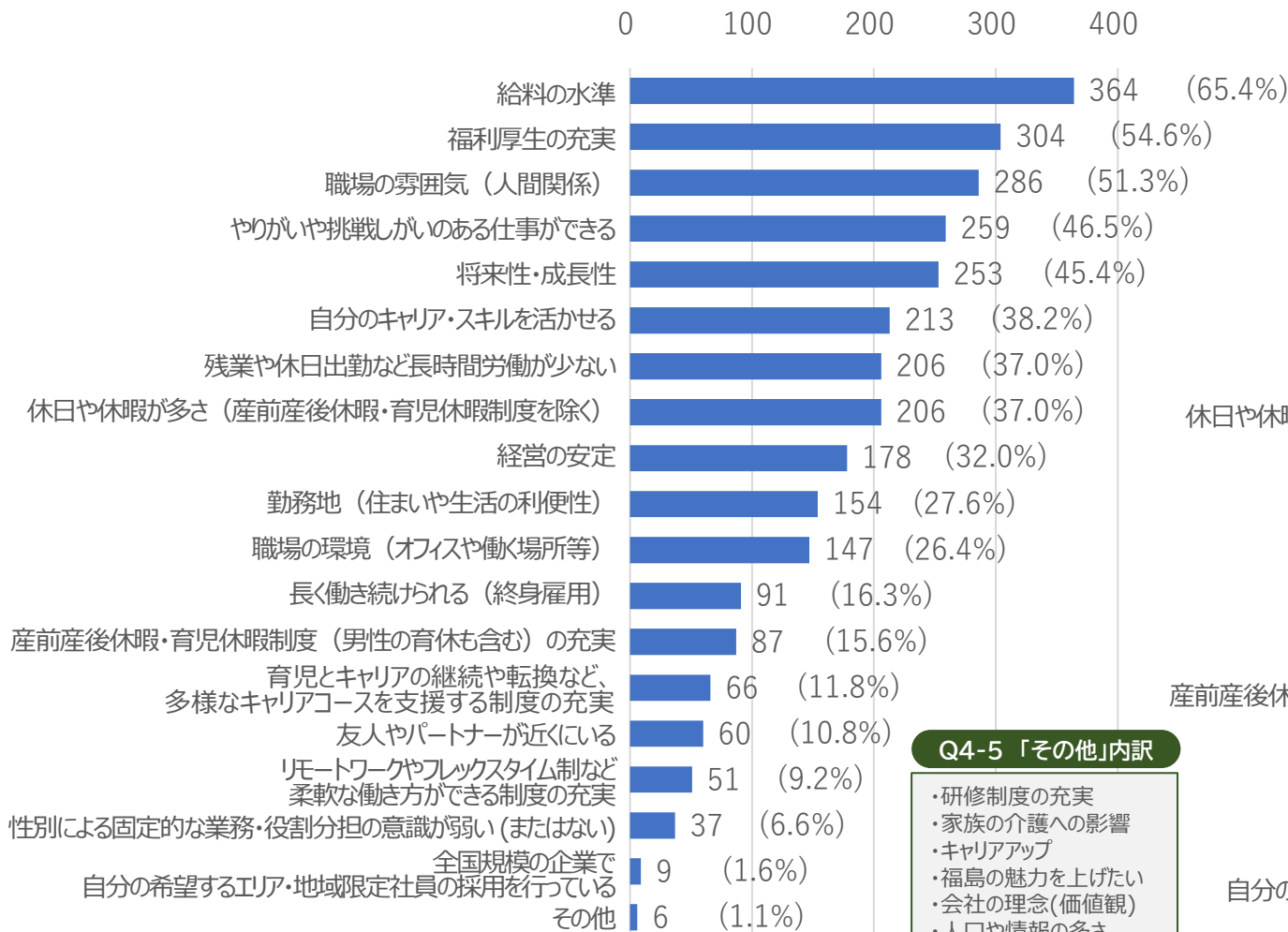
- ・福島が広い
- ・交通の便
- ・交通機関が少ない&交通費の支援が少ない
- ・通勤のための電車やバスなどの時間が不便であること
- ・車がないと生活が不便な点
- ・車の免許を取りたいと思っているので大丈夫ですが、もし県内の移動を公共交通機関を使って行うとなった場合、少し不便だと考えています。
- ・公共交通機関が少ない地域では、通勤や生活の移動手段に不安。車が必須の地域では、生活費や移動の負担が大きくなるのではと懸念している。
- ・交通の便がさらに不便になってしまうのではないかとということ
- ・了承の上だが、大雪の影響を受けやすいところ。今年の雪では交通が麻痺していたため。
- ・会津 只見地域の冬の運転が少し怖いのもう少し高規格な道路ができると嬉しいです
- ・いわき市は新幹線が通っていないので、車などがないと出張などが大変そう。
- ・出会いがなさそう
- ・将来的に子供づくりも考えているが出会いの場などが少なく、なおかつ医学部実習で忙しいため、どのようにすればよいか分からない。
- ・子供の教育、育児
- ・育児休暇の取得のしやすさ
- ・少子化となり、学校行事が行われなくなったりすること
- ・結婚して子供を授かった時に学校などがあるか
- ・子供を作る環境には向かない。
- ・福島市や郡山市などのインフラは維持されると思うが、福島県内の現在人口が少ないところのインフラを維持するにカドツカが気になる
- ・娯楽施設が少なすぎ
- ・医療過疎による不具合
- ・生活していくうえでの利便性。
- ・娯楽や買い物など、プライベートの充実面で都市部に比べて不便に感じるのではないかと不安がある。
- ・充実した生活が送れるか。
- ・公務員のインターンシップが少ない、応募締め切りが早い
- ・AIによって働く職場に限りが生じてしまうこと
- ・納税額
- ・人口減少
- ・全部不安。
- ・若者の減少
- ・人口不足や高齢化
- ・産業が今以上に衰退した時の生活維持

地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-4 就職活動で重視するポイント

(回答者数=557名、複数回答・6つまで)

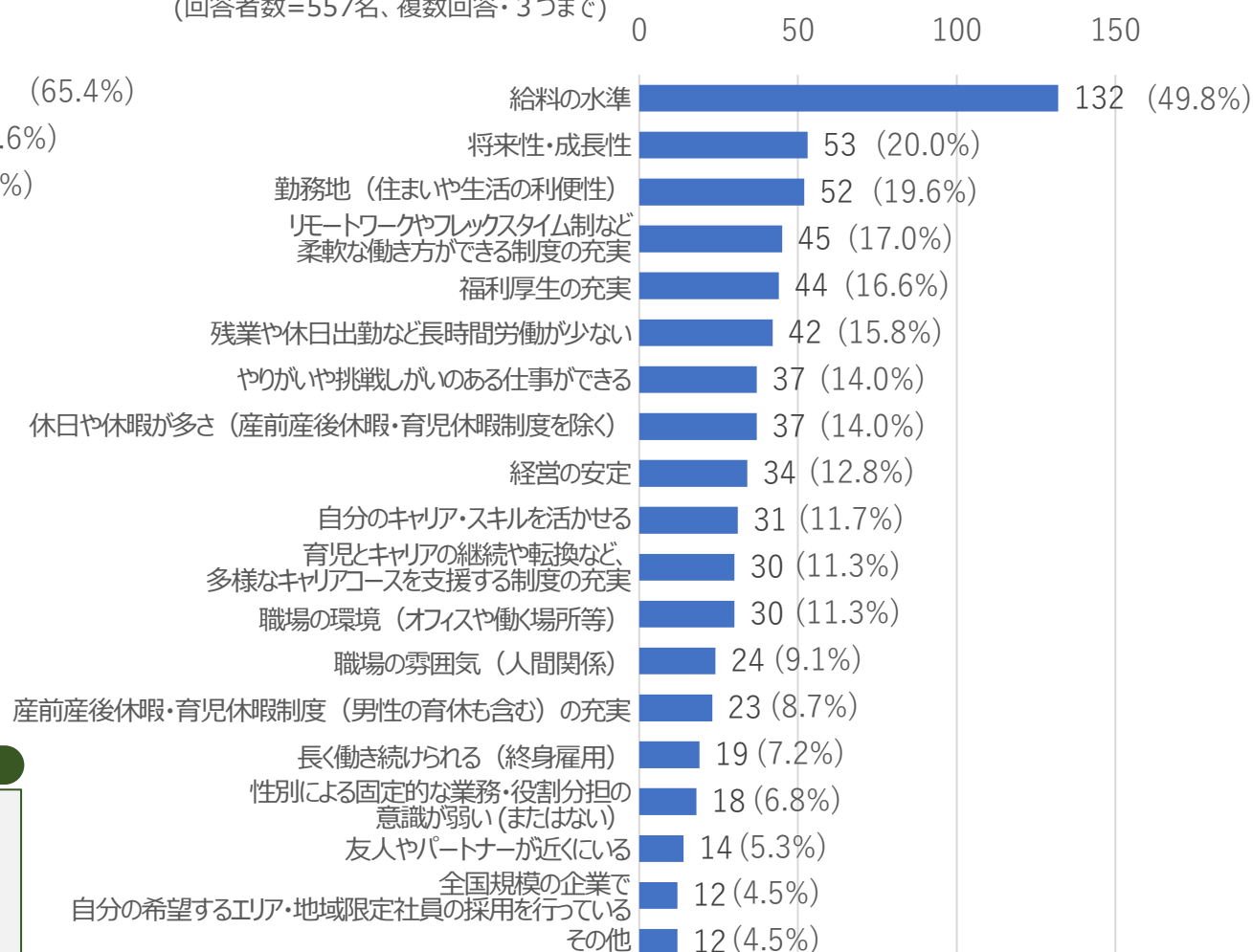


Q4-5 「その他」内訳

- ・研修制度の充実
- ・家族の介護への影響
- ・キャリアアップ
- ・福島の魅力を上げたい
- ・会社の理念(価値観)
- ・人口や情報の多さ

Q4-6 (就職活動をしている または した人のみ) 福島県の企業等に「特に不足している」と思うもの

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)

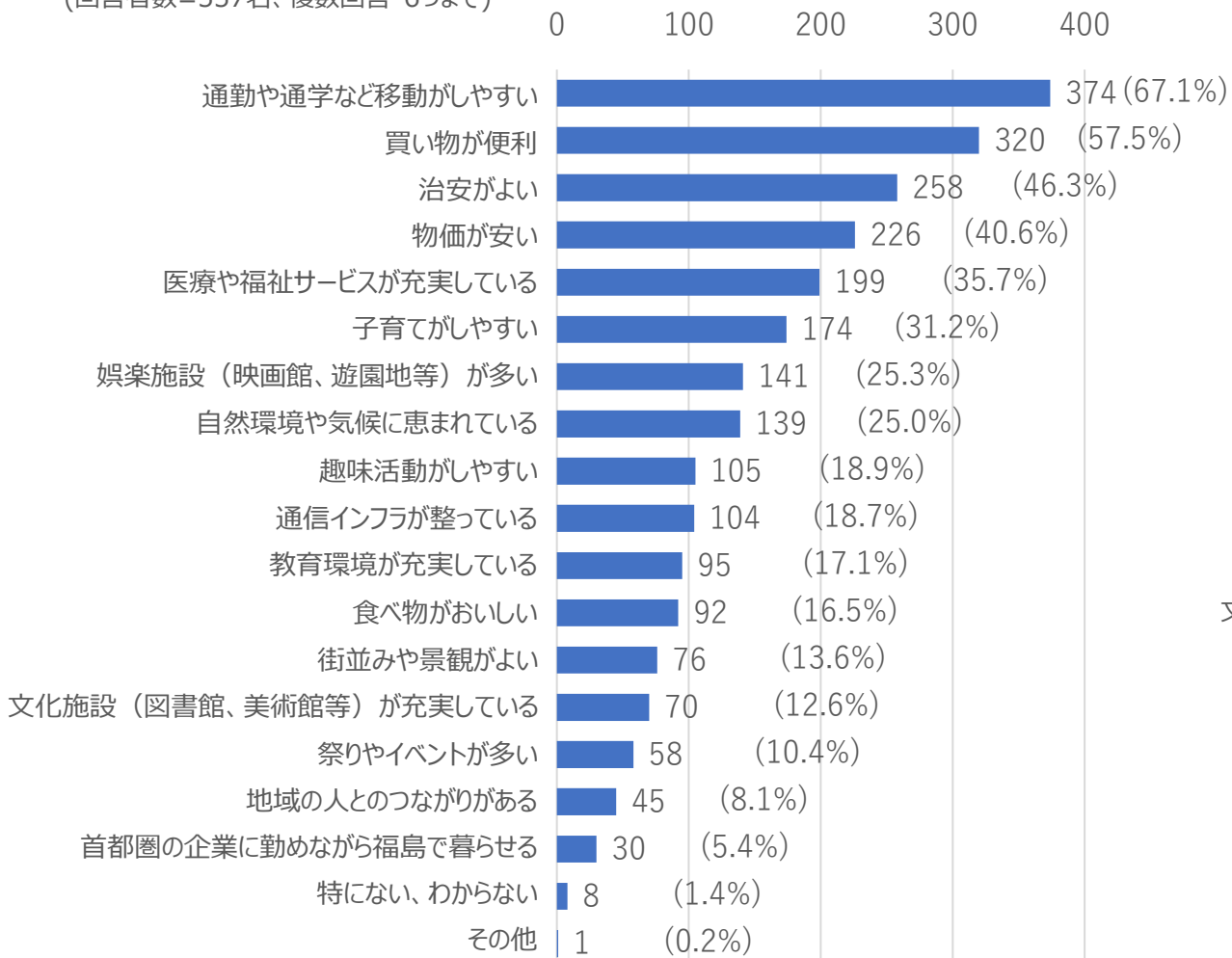


地方創生・人口減少対策に関する県内大学生アンケート調査 調査結果

3 若い世代の人口減少に対する現状認識

Q4-7 将来福島県で生活すると仮定した場合に、暮らす場所として地域求める条件(理想)

(回答者数=557名、複数回答・6つまで)



Q4-8 現状の福島県に「特に不足している」と思うもの

(回答者数=557名、複数回答・3つまで)

